

地方独立行政法人大阪市博物館機構 年度計画

令和4年度

令和4年4月1日

地方独立行政法人大阪市博物館機構

(前 文)

平成28年に策定された「大阪市ミュージアムビジョン」は、めざす姿として「都市のコアとしてのミュージアム」を掲げ、(1)大阪の知を拓く、(2)大阪を元気に、(3)学びと活動の拠点へ、の3項目のもとに具体的なアクションプランを定めている。これは、大阪の知を拓き発信することで、人々が集い賑わう都市を実現し、大阪を担う市民と歩むミュージアムになることをめざすものである。

地方独立行政法人大阪市博物館機構は、大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪歴史博物館及び大阪中之島美術館の館種の異なる6館を一体的に経営している。各館及び事務局の事業は、「大阪市ミュージアムビジョン」及び各館の使命などに基づき、中期計画・年度計画に沿って実施している。

こうした中、令和2年の初頭から始まった新型コロナウイルス感染症の影響を反映していない計画では、機構の中期計画の達成度を十分に評価できないことから、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた1年余りの運営状況を加味した計画とする必要がある。

令和4年度年度計画は、コロナ禍を見据えた業務執行体制のもと、新しい生活様式に沿った事業を実施し、館種の異なる6館を一体的に経営することにより各館事業を調和させ、博物館としての価値向上と持続的な経営を目指しつつ、下記の重要事項に力点をおきつつ策定するものである。

記

(1) コロナ禍に対応するCRS(C19. Res. Stra)の継続実施

新型コロナウイルス感染症対策を進める中で培われたノウハウを活用し、現在取り組んでいる各館のCRS事業について引き続き計画的に実施し、各館の価値向上、収入増に取り組む。

- ・リアルとデジタルの併用(ハイブリッド化)による事業魅力の向上
- ・デジタル(EC)化による増収、新たな資金の獲得、IT活用による経費縮減 等

(2) 大阪・関西万博の開催に向けた準備

都市の活性化と発展に貢献するため、大阪・関西万博の開催を、内外から幅広い利用者を獲得する好機と捉え、6館一体的に取り組む事業について具体的な準備を進める。

(3) 大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館改修事業の着実な実施

施設の利便性や魅力向上を目的とした市立美術館及び東洋陶磁美術館改修事業を着実に実施する。

(4) 大阪中之島美術館の安定的な運営に向けて

民間の知恵を最大限活用しながら、令和4年2月2日に開館した大阪中之島美術館の事業効果の向上と安定的な運営を図る。

(5) 中期計画期間のクロージングに向けて

次期中期計画策定のための「中期目標期間前年度にかかる評価（みなし評価）」に向け、今期中期計画において未達・未着手事項については早急に行うことができるよう、確実に年度計画に盛り込む。

大阪市立美術館

(前 文)

美術作品を通じ、新しい価値に触れ豊かな感性を育むさまざまな機会の提供を館の使命とし、日本・中国を中心に広く世界諸地域の文化財について、調査研究、管理、収集、保存、展示、教育普及等の事業を行う。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備

1) 博物館等資料の新たな収集(1)

ア 絵画・書・彫刻・工芸・考古の諸分野において、購入及び寄贈の受け入れを継続的に
行う。

【令和2年度実績】購入 0 件、寄贈 5 件

イ 博物館活動に有効な資料の寄託確保に努める。

【令和2年度実績】受入 10 件29点、返戻 13 件114点

2) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承(2)

ア 館内での総合的虫菌害の管理(I PM)を行う。

月に1回害虫トラップ調査、半年に1回の空気環境調査を行う。

イ 収蔵庫及び展示室での温湿度管理を継続的に行う。

ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。

エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。

3) 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供(3)

ア 継続的に館蔵品及び寄託品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。

【令和2年度実績】撮影 79 件、174 カット(1 CRS)

イ 調査研究に資するため、継続的に研究図書・雑誌・展覧会図録等の資料の収集を行う。

【令和2年度実績】図書・雑誌購入 139 点

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(4)

ア 個々のスキルアップを図るため、調査や研修に職員を派遣して情報収集に努める。

イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担等を模索する。

ウ 館の将来の運営を見据えた専門的人材の獲得をめざす。

5) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究(5)

ア 館蔵品や関連作品に関する基礎研究を継続的に進める。

【令和4年度予算目標】著書・論文等 10 件、研究発表 10 件、展覧会報告 1 件

【令和2年度実績】著書・論文等 15 件、研究発表 12 件、コレクション展報告 25 件

イ 資料保存、展示手法について、最新の情報の収集に努める。

改修に向けた保存・展示設備の情報収集に傾注する。(3市美改修)

6) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等(6)

ア 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象とした各種アンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復(7)

ア 館蔵資料の中から、資料の状態を勘案して優先順位を設け、修復を行う。

(3市美改修)

【令和4年度予算目標】3件

【令和2年度実績】3件

8) 各館の施設の計画的な整備及び改修(8)

ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修を着工し、令和7年度のリニューアルオープンを目指す。(3市美改修)

9) 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得(9)

ア 科学研究費補助金等の外部資金の獲得を目指す。

【令和2年度実績】科学研究費：4名が獲得、1名が分担者

文化庁助成金：1名が獲得

10) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修(10)

ア 大規模改修に際し、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した設計を行う。

(3市美改修)

(2) 幅広い活動や連携を通じた博物館等魅力の効果的発信

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 常設展における展示替え(11)

改修前の期間は、特別展のみの開催のため常設展の実施はなし。

2) 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化(12)

ア 改修前に本館のコレクションを来館者に御覧いただくために、自主企画による特別展を開催し、購入や寄贈によって集まった日本・中国などの書画・彫刻・工芸など8,400件をこえる館蔵品から作品を選定して展示する。(3市美改修)

・「華風到来」 4月16日～6月5日 開催日数45日

【令和4年度予算目標】20,000人

イ 万博に合わせて開催する特別展に向け、作品調査や出品交渉を進めるとともに、共催マスコミとの調整を図る。

3) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(13)

ア 展覧会等の関連事業としての講演会、ギャラリートーク等を開催する。

【令和2年度実績】講演会2回、オンラインミニギャラリートーク3回

4) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(14)

ア 研究紀要を刊行し、ホームページ上で公開する。

【令和4年度予算目標】1冊

【令和2年度実績】1冊

イ 特別展の図録を作成・販売する。

【令和4年度予算目標】1冊(共同作成1冊)

【令和2年度実績】2冊(うち独自作成1冊、共同作成1冊)

ウ 広報誌『美をつくし』を発行する。

【令和4年度予算目標】2回

【令和2年度実績】2回

5) 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用(15)

ア 本年度以降令和7年度までは改修期間となるため、通常の作品の貸借は原則として行わないが、館蔵作品の活用の観点から、本年度から来年度にかけて国内3会場を巡回する展覧会を開催する。(3市美改修)

- ・「大阪市立美術館名品展(仮称)」

於サントリー美術館 9月14日～11月13日

福島県立美術館 令和5年春

熊本県立美術館 令和5年秋

【貸出予定作品数】 約150件

【令和2年度実績】 貸出107件、借用181件

6) 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携(16)

ア 改修期間中、館蔵品の一部を大阪中之島美術館に保管するとともに、同館学芸員との共同作品調査や、同館開催の展覧会での活用をめざす。(3市美改修)

【令和2年度実績】

- ・特別展「天平礼賛」において大阪歴史博物館学芸員の協力を得て調査が進められ、同館および大阪市文化財協会保管の作品を借用

7) ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進(17)

ア 再開館時を目指してアーカイブ化を図るために、本年度はその基本情報を集約して来年度以降の計画を立てる。(3市美改修)

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

8) 他の博物館等関係機関との相互支援及び協働を通じた作品(資料)の保全及び効果的な活用(18)

ア 今年度以降は改修期間となるため、通常の作品の貸借は原則として行わないが、館蔵作品の活用の観点から、本年度から来年度にかけて国内3会場を巡回する展覧会を開催する。(再掲)(3市美改修)

- ・「大阪市立美術館名品展(仮称)」

於サントリー美術館 9月14日～11月13日

福島県立美術館 令和5年春

熊本県立美術館 令和5年秋

【貸出予定作品数】 約150件

イ 改修期間中、館蔵品の一部を大阪中之島美術館および京都国立博物館において保全を図るとともに、同館学芸員との共同作品調査や、同館開催の展覧会での活用をめざす。寄託品の一部を大阪歴史博物館において保全を図る。(3市美改修)

(3) 戦略的広報の展開

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信(20)

ア ホームページ等での情報発信を行う。

【令和2年度実績】

1,797,686pv/月平均149,807pv

イ SNSでの情報発信を行う。

【令和2年度実績】

Twitter フォロワー数：1,298 Instagram フォロワー数：654

ウ 広報誌『美をつくし』を発行する。(再掲)

エ 美術館のリニューアルにあわせて、ホームページのリニューアルを行うにあたり、専門家によるコンサルティングを行うことで情報発信の精度と効率を高めていく。

2) マスメディア等への積極的な情報発信(21)

ア マスメディアをはじめとする各種広報媒体に対し、展覧会や各種企画ごとにプレスリリース等の情報発信を行う。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定(22)

ア 事務局で実施した価格受容度調査のレポートや分析したデータをもとに広報やプロモーション施策に反映させる。

イ 大阪観光局やJTB、周辺宿泊施設など観光関連団体・企業との相互協力体制をベースに、文化観光の観点での情報発信、誘客計画を進める。

4) 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開(23)

ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。

5) 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開(24)

ア 新聞・テレビなどのメディアへの寄稿を通じた情報発信を行う。

2 幅広い利用者の獲得と連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実と体制整備

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致(25)

ア 本年度2本の特別展について新聞社・テレビ局等と協働し、実施する。(再掲)

・「華風到来」 読売新聞社

4月16日～6月5日 開催日数45日

【令和4年度予算目標】 20,000人

・「ドレスデン美術館展」 産経新聞社、関西テレビ

7月16日～9月25日 開催日数62日間

【令和4年度予算目標】 200,000人

2) さまざまな利用者の受入れ体制の充実(26)

ア 大規模改修を行うにあたり、こども、高齢者、障がい者、外国人など、多様な来館者に対応できるような工夫を行う。(3市美改修)

3) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(27)

ア 改修後の運用を見据え、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める。(3市美改修)

4) 芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励(28)

ア 美術館休館中の代替会場となりうる候補リストを各団体に提供する。

5) さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得(29)

ア 大阪観光局やJTB、周辺宿泊施設など観光関連団体・企業との相互協力体制をベースに、文化観光の観点での情報発信、誘客計画を進める。(再掲)

イ 天王寺駅・新今宮駅周辺の施設（てんしば、あべちか、あべのキューズモール、あべのハルカス、アポロビル等）との共同広報展開を継続する。

(2) 周辺事業者との連携

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客(30)

ア あべのハルカス美術館等との相互割引等を行い、新規来館者の増加を図る。

イ Osaka Metro が事業として展開している「sonoligo（ソノリゴ/イベントのサブスクリプションサービス）」事業との連携を通じて集客を図る。

ウ 天王寺駅・新今宮駅周辺の施設（てんしば、あべちか、あべのキューズモール、あべのハルカス、アポロビル等）との共同広報展開を継続する。（再掲）

エ 美術館の休館にあたり、美術以外のコンテンツと連携したクロージングイベントを開催することで美術ファン以外の来館および認知向上につなげていく。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

(3) 民間企業等との協働等

1) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発(33)

ア 特別展開催にともなうグッズ等の商品開発を行う。

イ 館蔵品を中心とした作品や美術館の建物をモチーフにしたグッズを、商品力やデザイン力に定評のある地元企業とのコラボレーションで定期的に展開し、美術館のオンラインショップや企業が有するチャンネルで販売していく。

3 人々の多様なニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こどもや教員の支援

1) こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施(35)

ア 改修にあたり、3階に教育普及に使用する部屋を作り、ワークショップ等のこども向けの事業を行うことを可能にする。（3市美改修）

イ 天王寺区との連携による「天王寺区ジュニアクラブ」の活動に参画することでリニューアル後のプログラム展開につなげていく。

ウ NPO法人関西演芸推進協議会などとの連携による小学校での特別授業などのプログラムを展開する。

(2) 幅広い利用者への支援

1) 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施(37)

ア 改修後の美術研究所の運営方法について検討を進める。（3市美改修）

イ 休館中の美術研究所の活動として作品画像による添削を中心としたオンラインサポートを実施する。

ウ 大阪公立大学等での博物館学関連講座への出講を行う。

【令和2年度実績】博物館展示論、博物館資料保存論、博物館経営論

エ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。

【令和2年度】来館者 870名

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(38)

ア 改修に際し、1階多目的室やカフェに講演会やレクチャー等に使用可能な設備、3階にワークショップ等に使用可能な部屋を作り、再開館後の教育普及事業の充実に備える。（3市美改修）

3) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(39)

ア 研究紀要を発行し、ホームページ上で公開する。(再掲)

イ 広報誌『美をつくし』を発行する。(再掲)

4) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(40)

ア 改修後の運用を見据え施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める。
(再掲) (3市美改修)

イ これまでに実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の見直しを進める。(再掲) (3市美改修)

(3) 参画機会の提供

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

1) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励(43)

ア 改修後を見据え、新たな教育普及事業のあり方について検討を進める。
(3市美改修)

イ 作品修復体験など、地元企業との連携による体験型ワークショップに関する企画を進め、改修後の教育普及活動でのコンテンツとして展開を目指す。(3市美改修)

<CRS 関係> コロナ対策

- (1) データベース公開、改修後の館蔵品図録やグッズ作成、教育普及・広報活動等でのソフト展開を見据え、1, (1), 3), アにおいて前年に続いて作品のデジタル化を促進する。
- (2) メールマーケティングについても引き続き展開し、情報発信はもとより業務効率化や来場促進などについても進めていく。
- (3) 動画による情報発信についても試験的に進めていく。
- (4) 休館となることから、会費支払いに関しても民間事業者による会費決済サービスを導入し、顧客の利便性向上と事務作業の簡略化を図る。

大阪市立自然史博物館

(前 文)

大阪の「自然の情報拠点」として自然史博物館の機能を発展させること、社会教育施設として人々の知的好奇心を刺激し、見つめる学習の援助を行うこと、など館の使命の実現を目指し、人々をとりまく自然のなりたちや、仕組み、変遷を、展示や普及活動を通して広く伝え、調査研究や資料の収集と保存、管理を通して過去から現在、未来へと自然史資料を伝える。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1)活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備

1)博物館等資料の新たな収集(1)

ア 自然史標本の今後の収集計画について「大阪市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ、保存管理する。

【令和2年度実績】みさき公園の骨格標本ほか322点、松田 吉弘コレクション(昆虫)9,891点など26,456点増

イ 収蔵庫など館内の配置を見直し、収蔵余力の確保に努める。移動式物品棚導入により特別収蔵庫の再配置を進めており、スペースの有効活用と、さらなる整理を進めるとともに、将来の安定的な収蔵に向けた検討を進める。

2)防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承(2)

ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。

【令和2年度実績】ドアブラシ設置によるIPM管理を強化した。

イ 入室記録、貸出管理簿による適切な資料の管理を行う。

ウ 防犯・防災システムを定期的に点検し、訓練を実施する。

エ 収蔵庫内の棚転倒防止対策を順次実施する。

オ 西日本自然史系博物館ネットワークなどとの連携による災害対策の検討を進める。

【令和2年度実績】令和2年7月豪雨被害標本の修復を支援し、災害対応時の協力体制に関する検討を進めた。

3)博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供(3)

ア 継続的な資料の登録・整理を進め、収蔵資料目録を発行する。

【令和2年度実績】「岸川椿蔵書目録」を発行

イ 標本資料だけでなく、自然史科学関連の画像・映像資料・絵画資料の収集と整理を進める。

ウ 継続的に市民の学習に資する図書、及び研究資料となる図書の収集を行う。

【令和2年度実績】単行本1,330部、逐次刊行物6,658冊増

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4)法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(4)

ア 退職・育休・産休などに伴う欠員を速やかに補充する。

【令和2年度実績】4月に学芸員2名を採用し、11月にアルバイトを採用した。

- イ スキルアップのため、館内に博物館学関連催事をオンライン・オフラインで誘致・実施する。
- 【令和2年度実績】10月より標本レスキューに関連した展示、11月に自然史標本レスキューをテーマとしたシンポジウムを実施。2月に取りまとめ成果を公表した。
- ウ 外部研究者とのネットワークづくりや研究能力の向上を目的とした、館内外で開催される学会参加など専門的研修への参加を進める。積極的にオンライン会議なども活用して進める。
- 【令和2年度実績 イ)ウ)関連】「博物館再開のための自然史系学芸員 Zoom ミーティング」、「デジタル時代の博物館における魅力発信と肖像権について考える」(12/7実施)、「COVID-19 状況下だからやってみた工夫、身につけたい技」(2/1実施)などを西日本自然史系博物館ネットワークで実施
- エ 総務系職員、案内要員を含めた、館の活動への理解を深めるための研修を実施する。
- 【令和2年度実績 関連】視覚障害者対応研修などを実施、またおよびロジックモデル評価を学ぶワークショップを実施した。
- 5) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究(5)**
- ア 館蔵資料を活用した研究、および野外での現況や生態に関する基礎研究を継続的に進める。
- 【令和2年度実績】査読付き論文 20 本、著書 5 冊、その他 245 本を公開、学会発表も 10 件行った。
- イ 西日本自然史系博物館ネットワークや関連学会などと連携して資料の保存科学的研究会、展示手法に関する研究会に参加または誘致開催する。
- 【令和2年度実績】東京文化財研究所の被災自然史標本の対応マニュアル作成協力。また南海トラフ巨大地震を想定した研究会を行った。
- ウ 科学研究費補助金を活用した現在継続中の研究課題を継続的に実施する。
- 6) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等(6)**
- ア 自主企画展の開催時には実施目的を明確にし、その目的・計画に基づいて組織内評価を行い、効果を検証する。
- 【令和2年度実績】コロナ禍の影響によりアンケート評価が実施できず。組織内自己評価のみ実施した。
- イ ミュージアムショップや普及行事についても適宜、アンケート調査や外部有識者によるピアレビューの実施によって、効果検証などの手法開発を試みる。
- 【令和2年度実績】コロナ禍の影響により接触及び滞在時間を少なくする観点から今年度はアンケート評価をとりやめた。ショップスタッフがオンライン講演会「ミュージアムグッズサミット」で講演し、多くのコメントと評価をもらい改善の参考とした。
- 7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復(7)**
- ア 展示資料を中心に必要に応じた修復を行う。ケース照明のLED化を計画的に進める。今年度は試験的な導入を進める。
- イ 収蔵資料のうち、修復が必要な希少文献や重要標本のうち、修復が必要なものの調査と検討を行う。
- 【令和2年度実績】ナウマンホール地図ビューワー、第1,3展示室(映像装置、人体骨格)や第5展示室の改良を実施した。
- 8) 各館の施設の計画的な整備及び改修(8)**
- ア 収蔵庫の再配置、高密度化などを進めていく。また、将来に向けた精査を進める。

【令和2年度実績】中長期的な方向性を館内で議論し、大規模改修について予備的な議論を行った。

イ 老朽化した建物の計画的整備として、第2展示室の天井改修に向けた検討を進め、本館の耐震補強について検討を進める。

【令和2年度実績】ネイチャーホールの天井耐震を9月から実施、3月までに本館のEV、第三展示室の屋上防水、チラーの修理を実施した。合わせてネイチャーホール、ナウマンホールの天井照明はLED化された。

ウ 研究機器などの継続的更新を進める。webサーバ、電子顕微鏡、デジタルマイクロスコープの更新手法の検討を進める。

【令和2年度実績】情報システムの更新について検討を進め、改善提言を外部専門家や市民を交えて作成した。メールサーバの変更、図鑑DBシステムの刷新検討を進めた。生物顕微鏡を一部更新した。

エ 照明のLED化の推進による照明環境の向上に努める。ケース照明、居室・収蔵庫のLED化を計画的に進め、標本に悪影響を及ぼしえる収蔵庫の残置灯の問題の解決を目指す。

【令和2年度実績】ネイチャーホール、ナウマンホール天井の水銀灯をLED化した。

オ 将来的な展示更新のための調査を進める。情報機器の刷新計画と合わせ、魅力的な展示の実現に向け外部コンサルタントも依頼し、検討を行う。

9) 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得(9)

ア 研究活性化のために当面取り組むべき研究課題について新規の応募を科学研究費補助金及び民間研究助成金に対して行う。

【令和2年度実績】令和2年度実施は研究代表者として14件(新規課題5件、継続課題9件)が採択された(これと別に延長課題2件)。他研究機関の分担者として参加する課題も7件(新規2件、継続は5件)、その他民間助成5件(新規2件、継続3件)が採択。

イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に代わる博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。

【令和2年度実績】採択を受け、視覚障がい者対応および大阪自然史フェスティバル関連シンポジウムを実施。自然史フェスティバルの内容はコロナ禍の影響により一部縮小してオンラインで実施したが、オンラインシンポにより多くの視聴を得ることができた。

ウ 科研費調査で行った自然史博物館に対する寄付支払い意思額の調査に関して分析し、寄付マーケティング動向を探り、自然史の活動に還元する。

10) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修(10)

ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策策定に向けプログラム検討や教育ニーズなどの情報を収集する。

【令和2年度実績】日本ライトハウスによるアドバイスを受け、10月以降、館内研修、点字資料、墨字資料などの改善・作成を行った。

イ 受付カウンターなどでのタブレット端末を利用した翻訳や説明の支援を検討し進める。

【令和2年度実績】独自事業による実施を一部行ったがコロナ禍の影響により接触端末利用、外国人案内の機会が殆どなかった。

ウ ポストコロナの高齢者ニーズについて検討を進める。また、バリアフリー化の施設改修に絡めた検討を行う。

【令和2年度実績】関連研究会を3月に予定していたがコロナ禍の影響により中止になった。

(2) 幅広い活動や連携を通じた博物館等魅力の効果的発信

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 常設展における展示替え(11)

人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、変遷や歴史を「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」のテーマで展示する。

ア 常設展示室内でのテーマ展示・コーナー展示などを開催する。

- ・ テーマ展示「岸川椿蔵書」 ～4/3
- ・ テーマ展示「新収資料展」 7/16～9/25
- ・ テーマ展示「自由研究展」 12/11～1/30
- ・ ミニ展示「干支展示」 1/5～30

【令和4年度予算目標】 211,300人

【令和2年度実績】 常設展示 102,488人

- ・ 岸川椿蔵書展：コロナ禍の影響による休館で実施できず YouTube にて公開
- ・ 「世界一変な火山」展：コロナ禍の影響による休館で実施できず、来年度開催
- ・ 「池田小の地下」：コロナ禍の影響による休館で実施できず、来年度開催
- ・ 大山桂貝類学文庫：25,517人観覧
- ・ 「陸前高田市立博物館コレクションが遺す地域の自然と文化ー自然史標本レスキューの現在地点ー」：24,329人観覧
- ・ 「氷河時代展ポスターができるまで」展：21,607人観覧
- ・ 「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」14,177人観覧

イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。感染症の蔓延など、実施できない場合には、オンラインコンテンツなどを提供する。また、適宜アンケートなどによる評価を強化する。

【令和2年度実績】 ワークショップは継続的に実施した。4月～7月、12～2月のワークショップは閉館などにより22回が中止となり、14回実施。

2) 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化(12)

ア 博物館の自主企画特別展

本年度4本の特別展のうち、これまでの調査研究の成果を活かし、関係機関の協力を得て、自主企画展を2本実施する（うち1本は再開催）。

- ・ 特別展「日本の鳥の巣と卵（仮）小海途銀次郎コレクション」4月28日～6月26日

日本で繁殖する鳥の巣の大部分を網羅する小海途銀次郎コレクションをすべて展示する。日本の鳥の巣と卵を見渡すと同時に、日本で繁殖する鳥の変遷についても考える。

【令和4年度目標】 入場者数13,000人

- ・ 特別展「大阪アンダーグラウンド Returns 展（仮）」12月～2月

2021年4～6月に新型コロナウイルス感染症による緊急事態に伴ってわずか8日のみの公開に終わった、あの「大阪アンダーグラウンド」展が帰ってくる。知られざる地面の下の世界を紹介する。

【令和4年度目標】 入場者数8,810人

イ マスコミと共催で実施する巡回特別展

- ・ 特別展「植物 地球を支える仲間たち」 ～4/3まで NHK 大阪放送局、NHK プラネット、朝日新聞社共催
- ・ 特別展「大地のハンター展」7/16～9/19 テレビ大阪、日本経済新聞社共催

・特別展「毒（仮称）」令和5年3月中旬～5月中旬 読売新聞社、関西テレビ共催

【令和2年度実績】「かがくのとびら」展（巡回企画）コロナ禍の影響により事業目的を達成することが難しいと判断し、開催中止とした。

ウ ミュージアムショップ利用者、ワークショップ参加者、特別展見学者アンケート分析をより深く進め、運営の改善を図る。

3) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(13)

ア 各種の自然観察会など多様な野外行事・講演会を継続的に実施する。

【令和2年度実績】合計173回を企画したが、コロナ禍の影響により中止となった行事110回、雨天などによる中止8回、実施した行事55回 これらの結果参加者数は2,462名であった。

イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。

【令和2年度実績】外来生物展に関連し、webでのオープンセミナーを計3回、その他公開の学芸員のセミナーを5回実施した。合計2,912人が視聴。

ウ 外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会などを誘致開催する。

【令和2年度実績】学団体研究会、日本菌学会との共催講演会を4、6月に予定していたが中止となった。12月に関西自然保護機構と実施した共催webシンポジウムは2,809回の再生となった。

4) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(14)

ア 研究報告、自然史研究の発行とホームページ上での公開を進める。

【令和2年度実績】大阪市立自然史博物館研究報告75号、自然史研究4巻4号を発行・公開した。

イ 収蔵資料目録・ミニガイドなどを継続的に発行する。

【令和2年度実績】収蔵資料目録52集「岸川椿蔵書目録」・ミニガイドNo.33「大阪地下のクジラ」を編集発行した。

ウ 特別展「日本の鳥の巣と卵」展の解説書を発行する。

【令和2年度実績】令和3年度に開催する「大阪アンダーグラウンド」の解説書の執筆編集を行った。発行・販売は令和3年度となった。（令和2年度の特別展「知るからはじめる外来生物」解説書は昨年度刊行済み）

エ 友の会発行の月刊誌Nature Studyを12冊監修、編集する。

【令和2年度実績】監修・編集し発行された

オ 出版社と連携した学術書の発行を検討する。

【令和2年度実績】ジダイ社から「発信する博物館」が発行されたほか、学芸員が関わった各種学術書が発行された。

カ SNS (Facebook, Twitter) や YouTube、ブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。

【令和2年度実績】HPでの新着情報46件、Twitter111件、Facebook50件を投稿 オフィシャルアカウントはTwitterを9,500人がフォロー、Facebook2,350人がフォローしている。この他、各学芸員がそれぞれ自然関連情報や館の活動を発信している。

5) 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用(15)

ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、要望に応じて収蔵資料の貸借を行い、当館の館蔵品の魅力や研究成果の発信と当館の展示の充実に努める。

- 【令和2年度実績】貸し出し：例年より少ないが、きしわだ自然資料館を始め展示目的の貸し出しを行っている、借り受け：外来生物展には京都大学および琵琶湖博物館などから、またテーマ展のために陸前高田市立博物館や遠野文化センターから貸し出しを受けた。
- 6) **各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携(16)**
- ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、要望に応じて収蔵資料の貸借を行い、当館の館蔵品の魅力や研究成果の発信と当館の展示の充実に努める。
- イ 将来の特別展示などの企画、及び常設展示の更新につながる共同研究を模索する。大阪歴史博物館学芸員などと共同研究員の科学研究費課題を申請中である。
- ウ 機構内の他館への展示協力
科学館で実施する企画展「色と形のふしぎ」に標本など各種資料を提供する。
- エ 科学研究費に関連して、職員向け研修を機構内に公開して実施
【令和2年度実績】倫理研修「論文のオーサーシップの基本的な考え方」を実施した。
- オ 市民向け共同事業の開催
大阪市立科学館と協力して「ジオカーニバル」を実施する。
【令和2年度実績】実行委員会に参画したが、中止。
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】
- 7) **I C T等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進(17)**
- ア 標本資料、自然史科学関連の画像・映像資料、絵画資料について科学研究費などを活用したデジタル化を進め、アーカイブの形成を図る。デジタル化のさらなる加速に向けて検討を行う。講演やシンポジウムもYouTubeなどを活用してアーカイブ化、公開する。
【令和2年度実績】科学研究費「動画を博物館の「標本」として収集・収蔵・利用公開するための課題解決と環境整備」の成果として、映像(動画資料)を中心に進展。著作権などの契約も進めている。静止画のコンテンツ登録もシステムの改良を次年度に向けて検討中。
- イ 標本情報について、Science-Museum Net, GBIF などを通じた継続的な公開を進める。
【令和2年度実績】計3,000点の情報を提供、公開。
- ウ 図書情報について、市立中央図書館などとの共有による活用促進に向けた準備を進める。
【令和2年度実績】図書館情報展などに所蔵図書状況などを公開。
- エ 研究報告などの研究成果をリポジトリによりインターネット公開を進める。
【令和2年度実績】87件の論文・レポートを登録、公開した。
- 8) **他の博物館等関係機関との支援及び協働を通じた資源の保全及び効果的な活用(18)**
- ア 大阪市立中央図書館、及び各区の図書館などでの巡回展示などを実施する。
【令和2年度実績】「大阪府立図書館(1月)『大阪アンダーグラウンド展』、『大阪市立中央図書館(3月)出張!自然史博物館展』」を実施した、このほか各区の図書館で展示する資料キットを提供した。
- イ 資料の保存状況や目的や手法を鑑みながら、研究目的での資料の相互貸借を行い、資料の研究を進め、学術的な価値の向上に努める。(再掲)
- ウ 大阪市理科系博物館連携クラスターに基づいた大阪大学との研究交流を進める。
【令和2年度実績】今年度の実施はなかった。
- エ 西日本自然史系博物館ネットワークとの協働、文化遺産防災ネットワークとの資料保全のための協働を進める。

【令和2年度実績】令和2年7月豪雨に伴う水害被災植物標本のレスキューに協力した。

9) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施(19)

ア 大阪市との調整が完了次第、学術関連催事を中心に、ポーチ（クジラ展示下）及びナウマンホールなどを活用したユニークベニュー事業に取り組む。

【令和2年度実績】コロナ禍の影響により実施できる状況になかった。

(3) 戦略的広報の展開

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信(20)

ア ホームページ、Facebook、Twitter などでの情報発信を継続して行う。特にYouTube、おうちミュージアムなどと連携した取り組みの発信を強化する。

【令和2年度実績】HPでの新着情報46件、Twitter 111件、Facebook50件を投稿、オフィシャルアカウントはTwitterを9500人がフォロー、Facebookを2350人がフォローしている。この他、各学芸員がそれぞれ自然関連情報や館の活動を発信している。

イ インターネット広告、学校向け案内など多様な手段を用いて広報を実施する。

【令和2年度実績】車内放送や学校向け案内を実施している。ポストカードはコロナ禍の影響により実施せず。

ウ 特別展などにおいて、テーマに相応しいイラストレーターやデザイナーの起用した魅力的なチラシ・ポスターの作成に努める。同時に、Web やグッズなどへの展開による効果的な特別展イメージ訴求に努める。

【令和2年度実績】外来生物展の広報は写真を基調としたものになり、今回、イラストレーターは採用しなかったが、製作者と学芸員の検討によりクイズ形式の訴求力のあるポスターとすることができた。「氷河時代展のポスターができるまで」をミニ展示として実施した。

2) マスメディア等への積極的な情報発信(21)

ア マスメディアをはじめとする各種広報媒体に対し、展覧会や各種企画ごとにプレスリリース等の情報発信を行う。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定(22)

ア 経営企画課から提出される他館のマーケティング調査レポートを参考に、次年度以降実施予定のマーケティング調査について検討する。

イ これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。

【令和2年度実績】ホームページの見直しなどを進めた。外部有識者を含めた見直し検討を行った。

4) 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開(23)

ア 長居植物園、セレッソ大阪などと連携した情報発信に努める。

【令和2年度実績】情報センター工事に対応し、協力して導線確保に務めた。コロナ対応でも連携を行った。

イ 咲くやこの花館・動物園など大阪周辺の生物多様性関連施設との連携した広報に努める。

【令和2年度実績】咲くやこの花館や動物園と資料の収集やイベントへの協力を試みたが令和2年度のイベントは中止に。来年度以降の協力を模索した。

ウ 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。

5) 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開(24)

ア 近隣の自然関連団体への学術的指導や学芸員による講演などを通じた広報活動を行う。

【令和2年度実績】大阪自然環境保全協会、近畿植物同好会、関西菌類談話会、日本野鳥の会、日本自然保護協会をはじめ、多くの自然関連団体への指導や講演を行っている。一部はコロナ禍の影響により中止。

イ 外部の普及誌・学術誌の執筆を行う。

【令和2年度実績】査読付き論文 20 本、著書 5 冊、その他 245 本を公開、学会発表も 10 件行った。

2 幅広い利用者の獲得と連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実と体制整備

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致(25)

ア 前年度に引き続き NHK 大阪放送局・朝日新聞社と連携した「植物 地球を支える仲間たち」を実施する。また夏にテレビ大阪・日本経済新聞社と共催の「大地のハンター展」を実施、来年度にかけて読売新聞社との共催による「毒」展（仮称）、以降の企画に向け各社と準備を進める。

・「植物 地球を支える仲間たち」展（巡回企画）令和4年1月14日～4月3日

光合成という、太陽エネルギーから有機物を作り出す能力を手に入れたことで、地球上の生命存在にとって必須の働きをしている植物は、人間と同じ祖先から出発し、今や地球上で最も成功している生物群である。食糧生産から環境維持まで、人類の生存にとってなくてはならない存在として、最先端科学で明らかにされつつある植物という生命の実体をリアルに伝える。地球上で人類が共に生きる存在としての植物の重要性に新たな視点をもたらし、SDGs 的な観点の重要性を伝える。

【令和3年度目標】 入場者数 87,381 人

【令和2年度実績】巡回特別展実施せず

・「大地のハンター」展（巡回企画）7月17日～10月10日

生命活動の礎とも言えるエネルギーを得るための活動である「捕食」に焦点を当て、様々な生物の顎と歯の進化、そして捕食の技の多様化を追いながら、自然の素晴らしさと地球環境保全の重要性を伝える科学展覧会。

【令和4年度目標】 入場者数 75,330 人

【令和2年度実績】巡回特別展実施せず

・「毒」展（仮称）3月～来年度予定

内容については調整中。

2) さまざまな利用者の受入れ体制の充実(26)

ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策策定に向けプログラム検討や教育ニーズなどの情報を収集する。（再掲）

イ 受付カウンターなどでのタブレット端末を利用した翻訳や説明の支援を検討し進める。

ウ 高齢者の参加ニーズなどに関する検討を進める。（再掲）

エ 授乳場所など、来館者ニーズに応じたサービス提供を進める。

3) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(27)

ア これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。（再掲）

イ 常設展示場内における外国語表記について QR コードを利用した解説など多様な手法を用いる検討を行う。

ウ 館内表示や非常放送の多言語対応などについて検証と検討を進める。

【令和2年度実績】英語による非常放送などは実現しているが、スタッフによる対応などさらなる改善手法について検討した。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励(28)

ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場としてこどものためのジオカーニバル(10月)大阪自然史フェスティバル(11月)を開催する。

【令和2年度実績】コロナ禍の影響により中止、11月3日にwebシンポを実施した。視聴者数1,483回。

イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。

【令和2年度実績】大阪自然史センター、大阪自然環境保全協会、(財)大阪みどりのトラストを始め、多くの団体に指導、支援を実施。

ウ アーティストによる標本活用など、芸術分野とのコラボレーションを継続して模索する。

【令和2年度実績】コロナ禍の影響、ネイチャーホール工事により今年度は実施できなかった。

エ 関連学会と連携した市民科学の発表機会を誘致する。

【令和2年度実績】3月に地域自然史と保全大会をオンラインにて実施延べ559人参加。

オ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展など生徒・児童の発表機会の確保に努める。

【令和2年度実績】11/23に大阪府高等学校生徒生物研究発表会を会場とオンラインのハイブリッド参加方式で実施した。会場参加70人オンライン参加21校。

5) さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得(29)

ア 連携のための情報収集を行う。商業施設等との連携展示を実施するとともに、キャッシュレス利用と連動した広報活動について連携を検討する。

【令和2年度実績】イオンモール大阪ドームシティで外来生物展の連携展示を実施。

イ 広報につながるコラボ事業を積極的に開拓する。館の所蔵する画像などのコンテンツの共同展開や商品への活用などを含め検討する。

(2) 周辺事業者との連携

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客(30)

ア 長居植物園、セレッソ大阪、駐車場事業者などと連携した情報発信に努める。(再掲)

イ 最寄のOsaka Metro 車内での放送やポスター掲出、Osaka Metro の事業への協力などを通じての広報を推進する。

【令和2年度実績】放送やポスター掲出は実施、Osaka Metro の「キッズ・サマーパス」等に協力し、観覧者を呼び込んでいる。

ウ 商業施設との連携・商店街との連携などによる広報及び誘客を進める。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施(31)

ア 大阪市環境局などの開催する環境イベントほかに協力する。

【令和2年度実績】予定していた環境局イベントが中止となった。

イ 長居植物園、セレッソ大阪、駐車場事業者などの連携に努める。(再掲)

(3) 民間企業等との協働等

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実(32)

ア ミュージアムショップサービスを間断なく提供できるように努め、常設展や特別展と連携した商品展開のための情報提供など、魅力の向上に努める。

【令和2年度実績】ミュージアムショップサービスも休館により4/1～6/2まで休止を余儀なくされたが、ネットショップにより活動を継続。アンケートは見合わせた。

イ 自動販売機設置などアメニティを間断なく提供できるように努める。

【令和2年度実績】アンダーグラウンド展に向けて商品開発を行っている。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発(33)

ア ミュージアムショップ運営会社のグッズ開発に協力し、ショップの魅力向上に努める。

イ 特別展などに合わせた新規グッズの開発に協力し、特別展の認知向上にも努める。

【令和2年度実績】外来生物展に際し、Tシャツやエコバックなどを開発、販売した。外来生物展に向けてもTシャツなどを開発。

3) 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援(34)

ア 学芸員の知見を求める自治体などの自然環境行政や企業などの環境保全活動の要請にこたえる。

【令和2年度実績】大阪市、大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、京都府などの環境行政に委員などとして協力を行っている（行政委員25件）。

イ 館蔵資料やその情報を活用した自然環境保全など、自然環境行政、環境活動に協力する。

【令和2年度実績】「堺市レッドリスト・堺市外来種アラートリスト」の改訂に協力中、十津川村の村史にデータ提供中など、事例多数。

ウ 人材育成を目的として講座や見学会への講師派遣など、友の会への連携を継続する。

【令和2年度実績】月例ハイク、合宿などを含め連携を継続

エ 学芸員の学術的知見を必要とする民間団体、市民団体の活動に協力する。

【令和2年度実績】業務内、兼業を含め講師派遣を多数行っている。

3 人々の多様なニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こどもや教員の支援

1) こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施(35)

ア 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。参加者アンケートなどの取り組みを強化する。

【令和2年度実績】子どもワークショップを38回分企画したが、4-7月、12-2月実施分はコロナ禍の影響などにより中止。代替プログラムをデジタルコンテンツにより提供した。

イ 常設展での小学生・中学生向けワークシート、学習用貸出資料の開発と提供を継続的に行う。

【令和2年度実績】継続的にワークシート、貸出資料を提供中、新規のキットなども積極的にYouTube やホームページに提供、「おうちミュージアム」として休館中の対応を積極的に行った。

ウ 特別展での見学用「ワークシート」、「キッズマップ」、「キッズパネル」の開発と提供を行う。

【令和2年度実績】「外来生物展」に向けた「キッズマップ」及び「キッズパネル」、ワークシートを開発・公開した。

エ 学校団体を対象とした遠足下見、説明会、相談対応を実施する。

【令和2年度実績】 随時実施

オ 事前の要請に応じた博物館内での学芸員による特別授業を実施する。

【令和2年度実績】 コロナ禍の影響により秋以降の再開となったため合計7校と少なかった。

カ 中学生、高校生、大学生への職業体験、インターンに対応する。

【令和2年度実績】 コロナ禍の影響により中止した学校が多く、利用はなかった。

キ 常設展での自己学習型シート「たんけんクイズ」の配布を継続する。

【令和2年度実績】 8月以降に再開、実施した。

2) 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施(36)

ア 教員のための博物館の日を開催し、学校利用のための研修や相談を実施する。

【令和2年度実績】 コロナ禍の影響により中止。研修用動画コンテンツを提供。

イ 教員向けサポート連絡誌 TM 通信を発行し、利用法の周知に努める。

【令和2年度実績】 コロナ禍の影響による休館に伴い、2号の発行にとどまった。

ウ 教員と連携した貸出資料・学習キットの開発に努める。

【令和2年度実績】 科研費の研究結果をもとに、学芸員の研究活動を紹介するミニガイド「クジラのバトン」を発行した。オンラインコンテンツとしても動画版を公開した。

(2) 幅広い利用者への支援

1) 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施(37)

ア 博物館実習などを通じ、学生への支援を行う。

【令和2年度実績】 夏期20名、秋期13名、冬期に21名、合計45名を受け入れたが、冬期はオンラインにて実施した。

イ 要請に基づき、大学での博物館学関連講座への出講を行う。

【令和2年度実績】 計画通り実施

ウ 館蔵資料の閲覧対応などを通じて研究者の活動を支援する。

【令和2年度実績】 6月以降再開。利用の成果が植物分野だけでも12論文公表されている。

エ ジュニア自然史クラブを通じた自然史科学に興味を持つ中高生への直接的な指導を行う。

【令和2年度実績】 92名がメーリングリスト登録、コロナ禍の影響で多くが中止となり、5回の行事(うち1回はオンライン)を実施、延べ79名が参加。

オ 周辺地域の Super Science Highschool 指定校などへのサポートを要請に基づいて行う。

【令和2年度実績】 高校生物教育研究会などを通じ支援(11/23 生徒研究発表会などで発表)

カ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。(再掲)

キ 大学生ワークショップサポートスタッフへの教育的指導を含めたエデュケーターとしての育成に努める。

【令和2年度実績】 大学もオンラインとなっていたため年度当初の募集を断念、昨年度参加者を中心にサポートスタッフを募集したところ11名が登録、活動を行った。

ク キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。

【令和2年度実績】 来館者481名

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(38)

ア 各種の自然観察会など多様な野外行事・講演会を継続的に実施する。(再掲)

- イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。(再掲)
- ウ 外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会などを誘致開催する。(再掲)

3) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(39)

- ア 研究報告の継続的な発行とホームページ上での公開(再掲)
- イ 共同研究報告書、館蔵資料集などの継続的な発行(再掲)
- ウ 年報の作成およびホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。

【令和2年度実績】10月に館報45号を発行、リポジトリに掲載した。

- エ SNS やブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。(再掲)

4) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(40)

- ア これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。(再掲)
- イ 常設展示場内における外国語表記についてQRコードを利用した解説など多様な手法を用いる検討を行う。(再掲)
- ウ 館内表示や非常放送の多言語対応などについて検証と検討を進める。(再掲)

(3) 参画機会の提供

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進(41)

- ア ボランティア活動を維持し、自然科学的な研修を実施して活動が充実するよう継続して検討を行う。

【令和2年度実績】コロナ禍の影響により活動できる次期が限定的であった。延べ41名が事前研修などを受け、補助スタッフとして各種野外行事・実習などを支援した。

- イ 学生向けのボランティアについては、自然科学的な研修とともに、教育手法についての研修を充実させ、人材育成を強化する。

【令和2年度実績】11名の学生が参加し、研修を受けて年度末にはプログラム実施を担った。

- ウ 関連NPO法人などとの協働事業を積極的に実施する。

【令和2年度実績】大阪自然史フェスティバル、東北被災博物館支援、各地域でのワークショップなどの実施で大阪自然史センターと、研修やICOM対応などで西日本自然史系博物館ネットワークと共同するなど各NPOと連携を進めている。

- エ 人材育成を目的として講座や見学会への講師派遣など、友の会への連携を継続する。(再掲)

【令和2年度実績】月例ハイク、合宿などを含め連携を継続したが、多くの行事が中止となった。

2) 各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定(42)

- ア 市民連携のあり方を検討する館長諮問の協議会を設置し、ボランティアやNPOとのさらなる連携などに関する方針を検討する。

【令和2年度実績】協議会についてはまちづくり関係者、コミュニティビジネス関係者、NPO経営アドバイザーなどの候補を決定し、打診し、打ち合わせを目指したが臨時閉館に伴い延期した。

- イ 友の会の総会および評議員会、各種ワーキンググループを通じ、意見を聴取する。

【令和2年度実績】評議員会(全てオンラインにて5回実施)、友の会総会(オンラインにて1月)、事業WG(オンライン一部ハイブリッドにて5回実施)などで意見聴取した。

- ウ 協働するNPOとの定期的な協議の機会を設け連携を密に行う。

【令和2年度実績】自然史センターと毎月協議を実施（オンラインを含む）、事業報告会は4月27日にオンラインで実施した。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励(43)

- ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場として大阪自然史フェスティバルを開催する。（再掲）
- イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。（再掲）
- ウ 関連学会と連携した市民科学の発表機会を誘致する。（再掲）
- エ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展など生徒・児童の発表機会の確保に努める。（再掲）

<CRS 関係> コロナ対策

(1) クレジット払いシステムの導入の検討

現行の提携先以外でも入館料の支払いをクレジットで行えるようにし、来館者の利便性を図る。

(2) 民間との協働広報

クレジット導入等にあたりその会社の広報ツールを利用して、協働による館の宣伝を行う。

(3) 講堂の改修に伴う、ネットワークの強化

講堂の改修により座席の間をあける。また、web配信も強化する。講堂利用に関する、利便性、魅力を高める。

(4) オープンセミナーの YouTube 配信の継続

視聴者からのスーパーチャット(収益化)などによる自発的支払いなどの導入を図る。

<万博関係>

- (1) 万博に合わせて開催する特別展について、企画調査を含め関連マスコミとの調整を図る。
- (2) 万博会場での自然との共存を図るための生物調査協力や助言などを積極的に行う。
- (3) ワン・ヘルス、中でも生物多様性保全について情報収集と発信を続ける。

大阪市立東洋陶磁美術館

(前 文)

豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たし、大阪が誇る世界で最も洗練された陶磁専門美術館を目指し、東洋陶磁をはじめとしたコレクションを中心に、関連するその他美術、工芸について、調査研究、保存、管理、収集、展示及び教育普及等の事業を行う。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備

1) 博物館等資料の新たな収集(1)

ア 芸術的あるいは資料的価値の高い作品の購入および寄贈の受け入れを継続的に行う。

【令和2年度実績】

- ・寄贈件数 14 件（作品数 119 件 133 点）：評価額計 83,069,000 円
- ・寄託作品 8 件（作品数 44 件、うち新規受入1件（作品数3件）、継続7件（作品数41件））

2) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承(2)

ア 収蔵庫・展示室の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。

【令和4年度目標】定期清掃（収蔵庫、資料展示室、李博士研究室）12回（月1回）

【令和2年度実績】8回

イ 館蔵品の点検を計画的に行う。

【令和4年度目標】国宝2件、重文13件、重要美術品9件及び本館・新館収蔵庫収蔵作品約1,500件等

【令和2年度実績】国宝2件、重文13件、重要美術品9件、寄贈作品119件、寄託新規受入作品1件

ウ 防犯・防災システムを定期的に点検すると共に既存設備の改修工事を行う。
（3東陶改修）

エ 新規受入作品の登録を継続的に行う。

【令和2年度実績】寄贈作品14件（作品数119件）

3) 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供(3)

ア 継続的に館蔵品を撮影し、データベース化するとともに、オープンデータ化を進める。

【令和4年度目標】デジタル撮影 作品20件

【令和2年度実績】デジタル撮影 作品81件(中国黒釉関係陶磁16件、近現代天目関係陶磁19件、青銅器1件、オープンデータ化作品20件、黒田泰蔵作品22件)

イ 継続的に研究図書などの収集を行う。

【令和2年度実績】購入図書資料256点(図書36点、雑誌34誌220点)

ウ ホームページでの収蔵品検索・収蔵品オープンデータの公開など情報発信と合わせて各サービスの多言語化を継続的に推進する。

エ ジャパンサーチ、グーグル・アートなど各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行う。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(4)

ア 専門的な人材の採用・育成と職務の役割を進め、国際的専門美術館としての体制の充実を図る。

【令和2年度実績】新規学芸員の採用1名、インターン受入3名

イ 学芸員のスキルアップを図るため、国内外での研修参加を推進する。

【令和2年度実績】会議、研修等参加のべ16名

ウ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担などを模索する。

5) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究(5)

ア 館蔵品に関する調査研究を継続的に進める。

【令和2年度実績】著書1件、論文等8件、その他原稿26件、研究発表2件、講演会等12件、取材協力4件、科研4件

イ 保存、展示手法等に関する調査研究を進め、最新の情報の収集を行う。

【令和2年度実績】研修、シンポジウム等参加のべ26名

6) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等(6)

ア 入館者に対するアンケート調査(ウェブ版含む)とその効果的な情報提供や広報活動等への活用について検討する。

【令和2年度実績】特別展アンケート8回(臨時休館のため4-7月は実施できず)

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復(7)

ア 館蔵資料の中から、資料の状態や活用予定などを勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行う。

【令和4年度目標】5件5点

【令和2年度実績】5件5点

8) 各館の施設の計画的な整備及び改修(8)

ア 本館エントランスを中心とした既存設備改修を実施する。(3東陶改修)(2万博)

イ 老朽化した展示ケースはじめ展示室の改修などを実施する。(3東陶改修)(2万博)

ウ 老朽化した展示ケースLED照明機器の更新準備と実施を目指す。(1CRS)(2万博)

9) 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得(9)

ア 科学研究費補助金等を活用した研究課題を継続的に実施し、また新規の応募を行い研究資金の獲得に努める。

【令和2年度実績】新規申請4名6件(研究代表者3名、研究分担者1名)、継続4件(研究代表者3名、研究分担者1名)

イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に代わる博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。

【令和4年度目標】新規申請1件(前年度に引き続き「館蔵資料オープンデータ化による国際発信(館蔵品20件)」の拡充のため)

【令和2年度実績】採択1件（事務局と共同して文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を申請し、採択された）

10) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修(10)

ア 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化及び、ユニバーサルデザイン化を推進する。（3東陶改修）

イ 最新式の多目的トイレ、授乳室の新設など来館者ニーズを踏まえた環境整備を行う。（3東陶改修）

(2) 幅広い活動や連携を通じた博物館等魅力の効果的発信

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) コレクション（常設）展における展示替え(11)

安宅コレクションの中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌（イ・ビョンチャン）コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁などのコレクション展示のリニューアルに向けて検討する。

【令和2年度実績】32,221人

ア 安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、近現代陶芸などの中から代表的作品を中心に約300点（特別展・企画展開催時は規模縮小）をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示するコレクション展示のリニューアル計画案を策定する。

イ 常設展示に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約20～30点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示について、リニューアル後の計画案を策定する。

2) 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化(12)

ア リニューアル後の特別展等の計画案を策定する。

【令和2年度実績】32,221人（「天目展」24,524人、「黒田泰蔵」7,697人）

3) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(13)

ア リニューアル後の展覧会計画策定に際して、展覧会ごとに関連した講演会や講座等の計画について検討する。

【令和2年度実績】実来場2回、オンライン2回

イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会、講座、レクチャーなどを継続的に実施する。なお、感染症予防対策及び休館中のため、オンラインによる実施に取り組む。（1CRS）

【令和4年度目標】5回

【令和2年度実績】2回（オンライン）

ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座を実施する。

【令和4年度目標】2023年2月頃開催予定

【令和2年度実績】李秉昌博士記念公開講座(13)「耀州窯青磁と高麗」をオンライン開催(2021年3月7日)で行った。

4) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(14)

ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行及びその準備を行う。

【令和4年度目標】館蔵品図録・特別展図録発行物の準備2件

【令和2年度実績】編集発行3件、編集2件、再版1件

イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告を発行する。

【令和4年度目標】2023年2月頃発行予定

【令和2年度実績】李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告について、オンライン開催用PDF版を発行した（李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告(13)「耀州窯青磁と高麗」PDF版）。

5) 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用(15)

ア 作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。

【令和2年度実績】貸出件数5回、貸出作品数計13件（うち海外分1回9件）

イ 特別展などの開催に際して、必要不可欠な国内外の美術館・博物館等の所蔵品の借用について準備を行う。

【令和2年度実績】116件（特別展50件、特集展66件）

6) 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携(16)

ア 大阪中之島美術館や科学館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、国立国際美術館やこども本の森 中之島など中之島にある文化施設のクリエイティブコンテンツの開発・創出の連携事業や広報協力を行う。

イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に代わる博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。（再掲）

ウ 機構の万博PT会議に参加し、万博に向けた取り組みの検討と計画案を策定する。（2万博）

7) ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進(17)

ア 新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進める。

【令和4年度目標】韓国陶磁の新撮画像の既存データベースへの追加登録 約200件

【令和2年度実績】119件（中国陶磁13件、韓国陶磁4件、日本陶磁38件、近現代陶芸55件、その他工芸2件、その他資料2件、絵画5件）

イ 館蔵品のデジタル画像データのオープンデータ化を進める。（「大阪市立東洋陶磁美術館収蔵品画像オープンデータ」サイトを活用し継続的に公開を行う）。

【令和4年度目標】20件

【令和2年度実績】23件 オープンデータ化のために規程の変更や利用規約の新規制定、新規規約の英語、中国語（簡・繁）、韓国語への翻訳を行い、ホームページでのデジタル画像のアップや容量の調整を行った。

8) 他の博物館等関係機関との支援及び協働を通じた資源の保全及び効果的な活用(18)

ア 国内外の美術館・博物館などとの協力により、休館中の館蔵品の効果的な活用を図る。

イ 相互協力提携のある台北・国立故宮博物院をはじめ、国内外の関連機関との共同研究や学術交流などを通して館蔵品の保全及び効果的な活用を図る。

【令和2年度実績】3件（台北故宮1件、韓国2件）

9) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施(19)

(3) 戦略的広報の展開

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信(20)

ア ホームページ（4か国語対応）、館案内パンフレット（5ヶ国語）、ポスター・チラシ、国内外の関連雑誌、Instagram、YouTube などにより情報発信を継続して行う。

【令和2年度実績】

・ウェブサイト「ART ことはじめ」ブログに学芸員が8件を寄稿し、他媒体との提携を行った。

・収蔵品画像オープンデータサイトの公開

・Instagram 投稿回数 96 件

イ ジャパンサーチ、グーグル・アートなど各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行う。（再掲）

2) マスメディア等への積極的な情報発信(21)

ア マスメディアなどへのプレスリリースを実施する。

【令和2年度実績】 5件

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定(22)

ア 事務局で実施した価格受容度調査のレポートや分析したデータをもとに広報やプロモーション施策に反映させる。

イ これまでに実施したアンケート調査や外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の充実に努める。

【令和2年度実績】

・事務局経営企画課が主催する機構広報 WG に参加し、各館情報の共有と、機構としての広報活動（「Osaka Museum」、「Exploring Osaka's Museums」、「Osaka Museums Card」等の刊行）に参画した。

・館のアンケート結果について報告し、機構の広報戦略策定に貢献した。

4) 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開(23)

ア 生涯学習情報誌月刊「いちょう並木」に展覧会等情報を提供する。（年間2回）

イ 中央公会堂をはじめ中之島エリアの中之島図書館、国際会議場等との広報協力について検討する。

【令和2年度実績】 2件

5) 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開(24)

ア 国内外の関連雑誌等と提携して館蔵品に関する研究成果等を発信する。

【令和2年度実績】 9件

イ テレビ等メディアでの紹介や取材協力により館蔵品に関する研究成果等を発信する。

【令和2年度実績】 4件

2 幅広い利用者の獲得と連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実と体制整備

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致(25)

ア リニューアルオープンに向けてマスタディア等と連携した展覧会を検討・準備する。（3東陶改修）

2)さまざまな利用者の受入れ体制の充実(26)

ア 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化及び、ユニバーサルデザイン化を推進する。（3東陶改修）（再掲）

イ 最新式の多目的トイレ、授乳室の新設など来館者ニーズを踏まえた環境整備を行う。（3東陶改修）（再掲）

ウ 新型コロナウイルスの収束後に増加する海外からの来館者の対応として、施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化やピクトグラム化の検討を進める。

エ 館内Free Wi-Fiの提供を継続して行う。

オ 年間パス販売などによるリピーターの確保に努める。

【令和2年度実績】販売件数 146枚

3)多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(27)

ア コレクション展示における主要館蔵品61件の多言語対応解説アプリ（「ポケット学芸員」）の提供とその充実を図る。

【令和2年度実績】平常展示における主要館蔵品61件の作品解説の多言語対応

イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努める。

ウ 新型コロナウイルスの収束後に増加する海外からの来館者の対応として、施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化やピクトグラム化の検討を進める。（2万博）（再掲）

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4)さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得(29)

ア JR、京阪電車はじめ関連鉄道事業者等との連携による交通広告等の充実に向けて検討する。

イ 周辺ホテル、観光施設等との連携による広報活動を検討する。

【令和2年度実績】

- ・ 阪急・阪神駅構内ポスター掲出
- ・ 大阪駅デジタルサイネージ（天目展）
- ・ 地下鉄中吊り広告（天目展・黒田展各6回）
- ・ 地下鉄駅構内ポスター掲出（黒田展3回）
- ・ 京阪沿線2駅の広告板「ミュージアムインフォメーション」における各展覧会の告知
- ・ 各展覧会のポスター・チラシ発送及び掲出依頼

(2)周辺事業者との連携

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1)各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客(30)

ア リニューアル後の国立国際美術館をはじめ、近隣及び中之島エリアの関連施設との広報協力や相互割引について検討する。

イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により中之島エリアの他の参加施設との共同広報を行う。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2)各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施(31)

ア 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加や水都大阪、中之島まつり、光のルネサンスなど中之島エリアの活性化につながるイベントへの協力を継続して行う。

イ 「こども本の森 中之島」との連携について検討する。

(3) 民間企業等との協働等

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実(32)

ア 民間事業者による魅力あるカフェ・ミュージアムショップの運営委託について検討する。(3東陶改修)

イ 来館者サービスの充実のため、ミュージアムショップなどのリニューアルやオリジナルグッズ作成を検討する。(3東陶改修)

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発(33)

ア 民間事業者との協働や画像データのオープンデータ化による館蔵品関連の図書や商品の開発を促進する。

3) 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援(34)

ア 館蔵資料の画像データ提供及び、問い合わせ対応などを通じて、企業、自治体活動の要請に応える。

3 人々の多様なニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こどもや教員の支援

1) 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施(36)

ア 教員やこども向けの研修・ワークショップへの協力・施設利用のための事前学習への支援について検討する。

イ 館蔵品画像オープンデータ化を通し、教材や教育プログラムへの利用推進を図る。

(2) 幅広い利用者への支援

1) 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施(37)

ア 東洋陶磁研究の世界的な拠点として、外来研究員や研修生(インターン)の受け入れを推進する。

【令和2年度実績】研修生(インターン)3名

イ 包括連携協定を締結している大阪公立大学の博物館学関連講座への出講を行う。

【令和2年度実績】(見学実習受け入れ)3大学55名(※市大の展示論を含む)

ウ 館蔵資料の調査対応などを通じて研究者の活動を支援する。

エ キャンパスメンバーズ制度に加入している大学の学生をはじめとした、学生等の来館促進の方策について検討する。

【令和2年度実績】来館者483人

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(38)

ア リニューアル後の展覧会計画策定に際して、展覧会ごとに関連した講演会や講座等の計画について検討する。(再掲)

【令和2年度実績】実来場2回、オンライン2回

3) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(39)

ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行及びその準備を行う。（再掲）

イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告を発行する。（再掲）

4) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(40)

ア コレクション展示における主要館蔵品 61 件の多言語対応解説アプリ（「ポケット学芸員」）の提供とその充実を図る。（再掲）

イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努める。（再掲）

ウ 新型コロナウイルスが収束後に増加する海外からの来館者の対応として、施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化やピクトグラム化の検討を進める。（再掲）

(3) 参画機会の提供

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進(41)

ア 当館活動に賛同・支援する機会を広く提供するため、ボランティア制度を再検討する。

<CRS 関係> コロナ対策

(1) 既存サービスのデジタル化

ア 民間事業者の活用によるキャッシュレス化とチケットレス化を推進する。

(2) デジタル化による新規事業の展開

ア 館蔵品の魅力と付加価値を高めるため館蔵品に関する 8K 独自コンテンツ制作の企画設計案に基づき制作の実現に向けての準備を進める。

イ リモート事業（講演会、講座等）を実施する。

(3) 新規利用者層の開拓

ア SNS などを活用した戦略的な広報活動を行う。

(4) 美術館の価値向上

ア エントランスの改修に伴いカフェ、ミュージアムショップ等の付帯設備の充実と活用を検討する。

イ 館蔵品の魅力を引き立たせる展示環境の魅力向上のため、高演色 LED 照明と国宝用免震装置付独立ケースの導入を検討する。

ウ 館蔵品の充実を図るため、近現代作品など関連資料の収集や展示を検討する。

<万博関係>

(1) 本館エントランスを中心とした既存設備改修を実施する。

(2) 老朽化した展示ケースはじめ展示室の改修などを実施する。

(3) 老朽化した展示ケース LED 照明機器の更新準備と実施を目指す。

(4) 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化及び、ユニバーサルデザイン化を推進する。

(5) 最新式の多目的トイレ、授乳室の新設など来館者ニーズを踏まえた環境整備を行う。

(6) 安宅コレクションの中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌（イ・ビョンチャン）コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁などのコレクション展示のリニューアルに向けて検討する。

(7) 機構の万博 PT 会議に参加し、万博に向けた取り組みの検討と計画案を策定する。

(8) 新型コロナウイルスの収束後に増加する海外からの来館者の対応として、施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化やピクトグラム化の検討を進める。

大阪市立科学館

(前 文)

科学を楽しむ文化の振興を図るため、主に物理学・化学・天文学・気象・科学技術に関する調査研究、資料の保存、管理、収集、展示、プラネタリウムの投影、教育普及等の事業を行う。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 さまざまな魅力の創造・発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備

1) 博物館等資料の新たな収集(1)

ア 物理、化学、天文、科学史、気象、科学技術を中心とした分野の新規資料を収集し、科学における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行う。

【令和2年度実績】展示物の改修・改善等 15 件（※コロナ感染防止改修を含む）

イ 大学等との連携を通じて観測機器類・実験装置類等実物資料の収集を行う。

【令和2年度実績】資料寄贈 10 件、購入・制作 2 件、借用 16 件

2) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承(2)

ア 常設稼働展示品を保守管理し、故障、運用停止を可能な限り少なくするよう努める。

イ 特に重要な資料に関しては、機械警備などによるセキュリティ確保を図る。

ウ 所蔵資料の出し入れを記録する。

3) 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供(3)

ア 現在提供している資料・展示物画像 40 件を引き続き有償提供する。

【令和2年度実績】8 件

イ 継続的に図書、研究図書の収集を行う。

【令和2年度実績】70 点

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(4)

ア 各種学会・研究会、講習等に随時参加して、専門性の向上と広範囲の情報の収集に努め、資質向上を図る。

イ プラネタリウム、サイエンスショーの制作時と制作後の組織内評価や、常設展示の改良評価の実施を通じて、学芸員の資質向上を図る。

5) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究(5)

ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。

【令和2年度実績】著書・論文等 29 件、研究発表 7 件

イ 資料保存、展示手法に関する研修に参加するなど、最新の情報の収集に努める。

ウ サイエンスガイドリーダーから展示物等について意見徴収し、展示物等の改善・改修のための調査研究を行う。

6) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等(6)

ア アンケートにより入館者の満足度等を調査、分析、評価し、館の運営、事業内容の改善を行う。

イ 学識経験者等によって構成される「大阪市立科学館展示改装検討会」を設置し、「大阪市立科学館展示改装基本計画」策定に向け協議する。

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復(7)

ア 科学に関する展示は、情報の陳腐化や体験型展示の老朽化などが起こるため、計画的な改修・改装を実施する。

【令和2年度実績】展示物の改修・改善等 14 件

8) 博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修(8)

ア 「大阪市立科学館展示改装（第4次展示改装）基本計画」を策定する。（2万博）

イ 常設展示品・展示場の老朽化対策や安全対策を計画に行う。

ウ 外壁全面検査により安全性の現状を把握する。

エ 館内防犯カメラ設置を計画する。

オ プラネタリウムホールの客席について、座席指定のあり方を検討する。（1 CRS）

9) 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得(9)

ア 科学研究費補助金をはじめとした各種研究助成金を獲得するため、学芸員が新規に応募をする。

【令和2年度実績】新規応募 11 件、採択 1 件(研究代表者)

イ 文化庁補助金「地域と共同した博物館創造活動支援事業」に代わる博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。

10) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修(10)

ア 救護室、おむつ交換用ベビーベッドなど、来館者ニーズに応じたサービスが提供できるよう、計画的に点検し、整備・改修する。

イ 展示場のトイレ洋式化などの計画策定を進める。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信

各館の魅力を幅広く伝える各種の博物館等活動を展開するとともに、他の館・機関と積極的に連携する。

1) 常設展における展示替え(11)

「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで模型・装置・実物などによる展示を行い、またサイエンスショーなどの演示を行う。

【令和4年度目標】常設展示入場者 205,723 人

【令和2年度実績】常設展示入場者 87,405 人（参考）令和元年度 405,825 人、平成30年度 203,070 人、平成29年度 379,021 人、平成28年度 375,376 人

ア 実験装置、観測装置の実物資料静展示や体験型展示を設置する。

【令和2年度実績】公開常設展示物 221 点

イ 展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示し、新プログラムを3か月に1本実施する。

【令和2年度実績】サイエンスショー演示回数 354 回 見学者数 6,480 人

2) 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化(12)

ア プラネタリウムの新プログラムを3か月に1本制作・投影するほか、特別プログラムを年1本制作する。

【令和4年度目標】プラネタリウム入場者数 209,316 人

- 【令和2年度実績】110,410人（参考）令和元年度 351,932人、平成30年度 215,558人、平成29年度 341,011人、平成28年度 356,694人
- イ 企画展「鉱物の魅力」（仮称、自主企画）、「気象の科学」（仮称、自主企画）を実施し、私たちに身近な天気・気象の科学や、多様な形や色を見せる鉱物の科学について、紹介することにより、市民の興味を喚起する。
- 【令和4年度目標】開催期間中展示場観覧者数 35,000人
- 【令和2年度実績】企画展開催期間中の常設展示場観覧者数 79,679人
- ウ プラネタリウムや展示等の各種事業において、学芸員の専門性を生かして、幅広い層にアピールするプログラムを開発する。
- エ 万博をテーマにした特別企画展の開催調査を進める。（2万博）
- 3) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(13)**
- ア 学芸員による各種実験教室や研修・講座を実施する。
- 【令和2年度実績】8件
- イ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施する。
- 【令和2年度実績】新型コロナウイルス感染症拡大のため実績なし
- ウ 館外に出張しプラネタリウムやサイエンスショー、講演等を実施するアウトリーチ活動を実施する。
- 【令和2年度実績】4件
- エ 中之島科学研究所コロキウムの実施を通じ、学芸員の研究成果の発表を行う。
- オ 随時、来館、電話による問い合わせ対応を行う。
- カ 新型コロナウイルス感染症の感染リスク軽減のため、オンラインによる事業を実施する。（1CRS）
- 4) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(14)**
- ア 学芸員の調査研究成果などを、研究報告の出版や学会発表、HPを通じて公開する。
- イ 月刊誌「うちゅう」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。
- 【令和2年度実績】12冊発行
- ウ 3か月ごとに「科学館だより」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。
- エ 展示解説の動画配信や SNS ツールを利用した情報発信を行う。（1CRS）
- オ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する。
- カ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。
- 5) 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用(15)**
- ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して各館への資料、展示物の貸し出しおよび借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努める。
- 【令和2年度実績】展示物貸し出し 1件 資料貸し出し 1件
- イ 他の科学館等に対してプラネタリウム番組を配給する。
- 【令和2年度実績】32件
- ウ 企画展において他の博物館の館蔵資料を借用する。
- 6) 各館の枠を超えた知識・経験等の共有及び、展示や共同広報等での戦略的連携(16)**
- ア 自然史博物館と協力して、こどものためのジオ・カーニバルの実施に協力する。

イ 東洋陶磁美術館や大阪中之島美術館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。

ウ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に代わる博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。(再掲)

7) ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進(17)

ア 館蔵品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を行うとともに、広報や画像提供サービスに利用する。

イ 科学館天文台等から星空や天体の様子のリアルタイム画像配信を行う。(1 CRS)

8) 他の博物館等や関連施設との支援や協働を通じた相互の資源の保全を含む効果的活用(18)

ア 大阪大学、大阪公立大学など近隣大学、各種研究機関と調査研究、講演会など各種事業の連携を行う。

イ 気象台や電気協会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。

ウ 第13回展示研究大会開催に協力し、他の科学系博物館と情報共有と協働を行う。

エ 中之島科学研究所事業やその人脈を通じて、調査研究や事業の質の向上を図る。

オ 日本プラネタリウム協議会をはじめとする各種協議会・会議等へ参画する。

9) 各館の建物及びその附帯施設等を有効活用した幅広い事業の実施(19)

ア プラネタリウムやアトリウムを活用したイベントを実施することにより、需要創出を図る。

(3) 戦略的広報の展開

時機やニーズを捉えた戦略的な広報活動を展開する。

1) 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信(20)

ア ホームページ、Twitter、YouTube、チラシ等を利用した情報発信を行う。

【令和2年度実績】ツイート数 680 件、YouTube 動画公開数 117 件

イ 3カ月ごとに広報紙「科学館だより」を発行する。

ウ 月刊誌「うちゅう」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。(再掲)

2) マスメディア等への積極的な情報発信(21)

ア 適宜マスコミに対してメールマガジンの配信、プレスリリースを実施する。

3) 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定(22)

ア 事務局で実施した価格受容度調査のレポートや分析したデータをもとに広報やプロモーション施策に反映させる。

イ チケット発券システム等により、来館者属性や来館動向を調査分析し、データに基づいた効果的なマーケティング、プロモーション、広報活動を実施する。

4) 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開(23) (改善項目)

ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。

イ クリエイティブアイランド中之島の設置するホームページへの情報提供を行う。

ウ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。

5) 各館の職員の専門的な知識及び技術を活かした効果的な広報活動の展開(24)

ア 情報誌・新聞・テレビ・ラジオなど様々なメディアに学芸員が寄稿・出演することにより、研究成果や事業情報を発信する。

2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備

多様な利用者を念頭に、ソフトの充実や受入れ体制の整備を図る。

1) メディアなどと連携した特別展や企画展の開催 (25)

ア 読売新聞社が主催で参画する「青少年のための科学の祭典」を実施する。

2) さまざまな利用者の受入れ体制の充実 (26)

ア 施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める。

イ 大活字ならびに点字、音声版による、科学館見学ガイドを利用に供する。

ウ 救護室、おむつ交換用ベビーベッドなど、来館者ニーズに応じたサービスを提供する。（再掲）

エ 展示場のトイレ洋式化などの計画策定を進める。（再掲）

3) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実 (27)

ア ホームページ、リーフレットの英語・中国語・韓国語対応を行う。

イ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化、展示解説ビデオの英語テロップ表記を行う。

ウ 解説・説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者増加を図る。

エ 施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める。（再掲）

4) 芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供および当該団体の活動の奨励 (28)

ア サイエンスガイドによる展示ガイドなどのボランティア活動を支援する。

イ 科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショーをはじめとしたボランティア活動を支援する。

ウ こどものためのジオ・カーニバル企画委員会、青少年のための科学の祭典大阪大会実行委員会などの活動を支援する。

エ 友の会有志による、「青少年のための科学の祭典」への出展を支援する。

オ 科学館大好きクラブによる展示解説を支援する。

カ ボランティアの科学デモンストレーター有志による万博共創チャレンジへの参加とその活動を支援する。（2万博）

5) さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得 (29)

ア 個人でのインターネットによる展示場やプラネタリウム予約・決済システムなどを活用する。

イ クリエイティブアイランド中之島の活動と連携し、チラシ配布等を行う。

(2) 周辺の施設や事業者との連携

近隣の施設や事業者と積極的に連携する。

1) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの商業施設や交通事業者との連携による広報や誘客 (30)

ア Osaka Metro、京阪電鉄、JR 等の交通機関にポスターを掲示する。

イ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。（再掲）

ウ Osaka Metro の「キッズ・サマーパス」等に協力し、観覧者の誘致を図る。

2) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施(31)

ア 中之島地域の各組織が連携したクリエイティブアイランド中之島実行委員会に参加し、連携したイベントに協力、実施する。

イ 中之島地域のエリアネットワーク（アートエリアB1、中之島ウエストエリアプロモーション等）と連携したイベントに協力、実施する。

(3) 民間企業等との協働等

民間企業等を対象とした支援や協働を推進する。

1) 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実(32) (1 CRS)

ア 民間企業と連携したオリジナル商品の開発、販売を行う。

イ 科学館ネットショップを継続して運用し、充実を図る。

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発(33)

ア 企業の協力による展示の充実を行う。

3) 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援(34)

ア 館蔵資料や展示物の画像データの提供、問い合わせ対応などを通じて、企業、自治体活動の要請に応える。

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援

こどもや教員向けメニューの充実や支援強化に取り組む。

1) こども向けワークシートの作成やワークショップ等の実施(35)

ア 学習指導要領に対応した展示場ワークシートの作成とその利用促進を図る。

イ 学校団体向けプラネタリウム学習投影を実施し、児童生徒の天体の運行などに関する学習理解の手助けとなる学習用資料を作成する。

【令和2年度実績】108回

ウ 幼児～小学校低学年を対象とした展示コーナーを常設するとともに、プラネタリウムに関しても「ファミリータイム」を実施する。

【令和2年度実績】305回

エ 小学校5・6年生を対象としたジュニア科学クラブを実施する。

オ 小学校向けの出張サイエンスショーを実施する。

【令和2年度実績】10校10件

2) 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施(36)

ア 大阪市教育センター等と連携を図り、サイエンスショーや実験実習等の教職員向けの研修を実施する。

【令和2年度実績】コロナ禍の影響により実績なし

イ 教員と連携を行い、事業の教育効果を高める。

(2) 幅広い利用者への支援

さまざまな人々の多様な学習ニーズに応える事業に取り組む。

1) 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施(37)

ア 天文学を学べる大学と連携し、その分野への進学に興味を持っている生徒に情報提供を行う場を設け、大学と高校生の仲立ちを担う活動を実施する。

イ 市井の研究者と学芸員の協同による中之島科学研究所事業を行う。

ウ 各種友の会活動等への学芸員の協力、関与を行い、科学に対して興味関心の高い市民に対する専門的な助言等の支援を行う。

【令和2年度実績】友の会 会員数 725 人

エ 博物館実習を実施し、学芸員資格の取得を目指す学生の支援を行う。

オ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。

【令和2年度】来館者 1,119 名

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業 (38)

ア 学芸員による各種実験教室や研修・講座を実施する。(再掲)

【令和2年度実績】8件

イ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施する。(再掲)

【令和2年度実績】コロナ禍の影響により実績なし

ウ 館外に出張しプラネタリウムやサイエンスショー、講演等を実施するアウトリーチ活動を実施する。(再掲)

【令和2年度実績】4件

エ 中之島科学研究所コロキウムの実施を通じ、学芸員の研究成果の発表を行う。(再掲)

オ 随時、来館、電話による問い合わせ対応を行う。(再掲)

カ 新型コロナウイルス感染症の感染リスク軽減のため、オンラインによる事業を実施する。(再掲) (1 CRS)

3) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開 (39)

ア 学芸員の調査研究成果などを、研究報告の出版や学会発表、HPを通じて公開する。(再掲)

イ 月刊誌「うちゅう」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。(再掲)

【令和2年度実績】12冊発行

ウ 3か月ごとに「科学館だより」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。(再掲)

エ 展示解説の動画配信やSNS ツールを利用した情報発信を行う。(再掲)

オ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する。(再掲)

カ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。(再掲)

4) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実 (40)

ア ホームページ、リーフレットの英語・中国語・韓国語対応を行う。(再掲)

イ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化、展示解説ビデオの英語テロップ表記を行う。(再掲)

ウ 施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の検討を進める。(再掲)

エ 解説・説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者増加を図る。(再掲)

(3) 参画機会の提供

市民やさまざまな利用者に向け、幅広い参画機会を提供する。

1) ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進 (41)

ア 展示解説ボランティアによる展示ガイド、プチサイエンスショー、実験教室並びにその実施に向けての研修を行う。

【令和2年度実績】コロナ禍の影響のため実績なし

イ 科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショーの実施、並びにその実施に向けての研修とスキルアップ活動を行う。

【令和2年度実績】 コロナ禍の影響のため実績なし

ウ 科学館だいすきクラブ、友の会活動、東亜天文学会の活動支援を行う。

2)各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定 (42)

ア サイエンスガイドリーダーとの定期的な打ち合わせを通じて、意見徴収を行う。

3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励(43)

ア サイエンスガイドによる展示ガイドなどのボランティア活動を支援する。

イ 科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショーをはじめとしたボランティア活動を支援する。

ウ こどものためのジオ・カーニバル企画委員会、青少年のための科学の祭典大阪大会実行委員会などの活動を支援する。

エ 友の会有志による、「青少年のための科学の祭典」への出展を支援する。

オ 科学館大好きクラブによる展示解説を支援する。

カ ボランティアの科学デモンストレーター有志による万博共創チャレンジへの参加とその活動を支援する。(2万博)

<万博関係>

- (1) 「大阪市立科学館展示改装(第4次展示改装)基本計画」を策定する。
- (2) 万博をテーマにした特別企画展の開催調査を進める。
- (3) ボランティアの科学デモンストレーター有志による万博共創チャレンジへの参加とその活動を支援する。

大阪歴史博物館

(前 文)

館の使命である「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」の実現を目指し、都市大阪の歴史及び文化やその他の関連する資料について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行う。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備

1) 博物館等資料の新たな収集(1)

ア 歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入および寄贈の受け入れを継続的に行う。

【令和2年度実績】 購入0件、寄贈 1,405点

イ 博物館活動に有効な資料の寄託の確保に努める。

【令和2年度実績】 0件0点

2) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承(2)

ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。

イ 出納簿によって収蔵庫からの資料の出し入れを記録する。

ウ 防犯・防災システムを適切に運用する。

エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。

3) 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供(3)

ア 継続的に館蔵資料のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。

【令和2年度実績】 館蔵資料撮影 113カット、デジタル撮影 2,020カット

イ 「なにわ歴史塾」で市民の閲覧に供し、また調査研究に資するため、継続的に図書収集を行う。

【令和2年度実績】 図書 4,726点

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(4)

ア 職員のスキルアップを図るため、研修情報などの収集に努め、参加機会を得る。

イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担などを模索する。

5) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究(5)

ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。

【令和2年度実績】 共同研究事業4本、基礎研究事業1本、著書・論文等 55件、研究発表 24件

イ 資料保存、展示手法について、最新の情報の収集に努める。

6) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等(6)

ア 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象とした各種アンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。

イ 展覧会事業を館内組織で事後検証し、効果を確認する。

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復(7)

ア 館蔵資料の中から、資料の状態を勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行う。

【令和2年度実績】 3件3点

8) 各館の施設の計画的な整備及び改修(8)

ア 老朽化した展示ケースや備品類の新調、展示端末などの展示機器の状況を把握し、適宜対応を行う。

イ 展示改修基本計画に基づき、展示改修へ向けての準備を進める。

ウ 展示ケースの有機酸対策について日常的に改善作業を実施するとともに必要データを集め、展示ケース改修計画を進める。

9) 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得(9)

ア 科学研究費補助金等外部資金を獲得するため、学芸員が新規応募する。

【令和2年度実績】 採択：研究代表者6件（新規1件、継続5件）、研究分担者8件（新規1件、継続7件）、他に出光文化福祉財団調査・研究助成1件

イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に代わる博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。

10) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修(10)

ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。

イ 増加する海外からの来館者対応のため、大阪・関西万博に向けた改修計画のなかでトイレの洋式化などの調整を進める。

ウ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者に対応できる方策を検討する。

(2) 幅広い活動や連携を通じた博物館等魅力の効果的発信

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 常設展における展示替え(11)

古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などで展示する。

【令和4年度目標】 常設展示入場者 77,600人

【令和2年度実績】 常設展示入場者実績 45,511人

ア 最新の調査研究成果に基づき、季節や時宜に応じた展示、話題性のあるテーマ・内容の展示をおこなうことで常設展示の更新に取り組む。

【令和2年度実績】 テーマ展示 3回

イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。

ウ 館蔵資料および市内出土の考古資料を紹介するため、6本の特集展示を実施する。

・大阪のタイル文化―日本における名称統一100周年― 4月20日～6月27日

・戦争と福祉・ボランティア―田中半治郎の遺品から― 6月29日～9月5日

・新発見！なにわの考古学2022 9月7日～11月14日

・大阪の近郊農業―農具とわざの諸相― 11月16日～1月23日

・銀行重役のコレクション―京・大阪の近世絵画を中心に― 1月25日～3月21日

・新収品お披露目展 3月23日～5月15日

2) 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化(12)

ア 本年度は下記の1本を自主企画によって実施する。

・「絶景！滑稽！なにわ百景！」4月23日～6月5日、開催日数39日

近世には名所を描いた版画、刊本、絵画が数多く残されたが、その楽しまれ方はさまざまだった。近世の大坂の人びとは、日々何を眺め、何に笑い、大坂の町を歩いたのか。本展では「浪花百景」などの近世後期の版画や刊本、絵画などから、おおさかの町の楽しみ方を紹介する。

【令和4年度目標】25,000人

- イ 常設展示枠内で特別展示室を活用し、特別企画展を実施する。
 - ・「和菓子と大阪（仮）」（自主企画）7月16日～9月4日、開催日数44日
江戸時代の大坂には数多くの菓子店が存在し、その伝統は現代にも受け継がれている。和菓子の文化の広がりや、大阪という地域とも包含して紹介する。
 - ・「古墳時代の刀剣展（仮）」（共同企画）10月8日～12月4日、開催日数50日
古墳時代（3～7世紀）における日本各地の刀剣類の展示を通じて、当時の社会構造や地域間交流、各地の特徴を明らかにしながら、日本の古代国家の形成過程について最新の研究成果を紹介する。
 - ・「一橋本忠之コレクション受贈記念— 文明開化のやきもの印版手」（自主企画）1月21日～3月21日、開催日数52日
“文明開化のやきもの”として愛好家の多い印版手を30年以上にわたり体系的・網羅的に収集し、国内屈指のコレクターとして知られる橋本忠之氏より寄贈されたコレクションから厳選した作品を展示する。

3) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(13)

- ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果にもとづき、連携をはかりつつ「なにわ歴博講座」やテーマをもった連続講座を実施する。

【令和2年度実績】なにわ歴博講座 3回

- イ 展覧会などの関連事業としてのシンポジウムなどを開催する。
- ウ 時宜に叶ったテーマで館長講演会を開催する。
- エ 学習情報センターなにわ歴史塾を窓口、学芸員が利用者の質問等に応える。

4) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(14)

- ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、ホームページ上で公開する。

【令和2年度実績】「大阪歴史博物館研究紀要」第19号

- イ 共同研究報告書、館蔵資料集などを継続的に発行する。

【令和2年度実績】「共同研究報告書」第15号、「大阪歴史博物館館蔵資料集」第17号

- ウ 年報の作成およびホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。
- エ 特別展の図録を作成する。

【令和2年度実績】2本の巡回の特別展（1本は開催中止）において企画参画し作成。

- オ 特集展示リーフレットを継続的に作成する。

【令和2年度実績】5本の特集展示において作成（ただし1本は臨時休館により中止）

5) 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用(15)

- ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して各館への資料の貸し出しおよび借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努める。

【令和2年度実績】貸出8件45点

- イ 特別展・特別企画展の開催に際して、必要不可欠な国内外の博物館等の所蔵品の借用を行う。

6) 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携(16)

- ア 美術館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出する。
- イ 機構内各館と連携した展示や共同研究の企画を模索する。
- ウ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に代わる博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

7) ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進(17)

- ア 統合データベースへの登録を推進するため、新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進める。

8) 他の博物館等関係機関との支援及び協働を通じた資源の保全及び効果的な活用(18)

- ア 共同研究における外部研究者との研究を行う。
【令和2年度実績】 共同研究4本
- イ 大阪市文化財協会が調査した埋蔵文化財資料の展示や速報性を重視した年2～3回のパネル展を実施する。
- ウ 東京都江戸東京博物館との共同研究を継続実施する。
- エ 韓国・大邱博物館との学術交流協定にもとづいた研究交流を実施する。

9) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施(19)

- ア アトリウム地下にある難波宮の遺構や、博物館南側の史跡指定地内に復元された5世紀の倉庫のガイドツアーなどの実施。
【令和2年度実績】 難波宮遺跡探訪 0人、復元倉庫公開 0人

(3) 戦略的広報の展開

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信(20)

- ア ホームページ、Twitterでの情報発信を継続して行う。
【令和2年度実績】 ツイート数 682件
- イ 事業に応じて特設のランディングページ(LP)を設け、発信力を高める。
- ウ 紙媒体として「歴博カレンダー」を継続的に発行する(年4回)。
【令和2年度実績】 3回作成
- エ 谷町四丁目駅での電照広告や掲示板の効果的な活用を図る。

2) マスメディア等への積極的な情報発信(21)

- ア マスメディアをはじめとする各種広報媒体に対し、展覧会や各種企画ごとにプレスリリース等の情報発信を行う。
- イ 民間企業との協働事業の開始にあたっては、記者発表会等の開催を積極的に企画していく。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定(22)

- ア 事務局で実施した価格受容度調査のレポートや分析したデータをもとに広報やプロモーション施策に反映させる。

イ 機構の広報誌「Osaka Museums」に参画し、それを配布して当館および機構各館の広報を行う。

4) 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開(23)

ア 生涯学習情報誌月刊「いちょう並木」に展覧会等情報を提供する。

イ NPO法人まち・すまいづくりと協働して、あべのハルカス近鉄本店内でポスター掲出を行い、同上本町店のデジタルサイネージで特別展広報を行う。

ウ 当館が事業協力するシニアシティカレッジ、大阪高齢者大学校等と連携して当館事業の広報を行う。

5) 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開(24)

ア さまざまなメディアに学芸員が執筆・出演することにより研究成果を紹介する。

【令和2年度実績】「朝鮮通信使と大阪」オンラインフィールドワーク動画（駐大阪韓国文化院ホームページ）、NHK テレビ「歴史秘話ヒストリア」、MBS ラジオ「中村耆太郎のうえほんまち夜カフェ」、日本経済新聞「関西タイムライン とことん調査隊」（10月20日夕刊）

2 幅広い利用者の獲得と連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実と体制整備

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致(25)

在阪の新聞社・放送局等と平素より展覧会企画に関する情報交換を行い、誘致に努めている。現在、リニューアル後に向けて、福岡黒田家の重宝や尾張徳川家の名宝、近世の浮世絵、大相撲（日本相撲協会百周年）などの大型展企画について新聞社より打診を受け、誘致の検討を行っている。

2) さまざまな利用者の受入れ体制の充実(26)

ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する（再掲）。

イ 増加する海外からの来館者対応のため、トイレ洋式化などの計画策定を進める（再掲）。

ウ 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進め、展示更新計画と合わせて新たなあり方を検討する。（再掲）

エ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者に対応できる方策を検討する。（再掲）

3) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(27)

ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進め、展示更新計画と合わせて新たなあり方を検討する。

イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。（再掲）。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励(28)

ア 館の活動に関係する学術団体等と連携し、発表の場を設ける。

【令和2年度実績】 第36回歴史学入門講座（同講座実行委員会）開催中止

5) さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得(29)

ア 旅行事業者（クラブツーリズム等）や大阪観光局との連携を深め、誘客を促進する。

イ 新たな連携のための情報収集を行う。

(2) 周辺事業者との連携

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客(30)

ア 大阪城天守閣との共通券の発行を継続し、新規来館者の増加に努める。

イ 最寄のOsaka Metro 駅構内でのポスター掲示の継続や、Osaka Metro の事業への協力などを通じての広報を推進する。

ウ 博物館周辺の商業施設（もりのみやキューズモールBASE など）との共同広報展開を継続する。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施(31)

ア 隣接するNHK 大阪放送局との共同企画を立案・推進するとともに、同局イベントへの参画を継続し、NHK 大阪 BK ワンダーランドにあわせた企画を実施する。

イ 書店や図書館などが実施するまちライブラリーブックフェスタに参画する。

(3) 民間企業等との協働等

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実(32)

ア ミュージアムショップの魅力向上に努める。

イ レストランの機能維持に努め、実施している相互割引などに加えて魅力向上にも努める。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発(33)

ア 民間企業と協働で展覧会およびイベントを企画し実行する。（1 CRS）

イ ミュージアムグッズの企画開発、販売を民間事業者と連携して促進する。

3) 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援(34)

ア 館蔵資料の写真利用、問い合わせ対応などを通じて、企業、自治体、市民団体の要請に応える。

【令和2年度実績】213件

イ 企業の研修等に協力し、地元への理解・愛着の促進を支援する。

3 人々の多様なニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こどもや教員の支援

1) こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施(35)

ア 地元の小中学校への郷土史学習コンテンツやイベントを企画し、参画・利用を働きかける。

イ 常設展示場内でのスタンプラリー実施や8階「歴史を掘る」コーナーでのワークシートの配布。

ウ 「わくわく子ども教室」「考古学体験教室」などのこども向け事業を実施する。

【令和2年度実績】コロナ禍の影響のためすべて中止

エ 小中学校向け展示ガイドブックやワークシートを当館ホームページにアップし、教員への周知を図る。

オ 中学生向け職業体験を実施する。

【令和2年度実績】職場訪問・出前授業 2校

2) 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施(36)

ア 教員向けの利用講座を通じ、ワークショップなどで当館の魅力を伝えるようにし、当館の活用を図るようにする。

イ 教員研修への協力を行う。

【令和2年度実績】 コロナ禍の影響ため実施せず

ウ 教員のための博物館の日を実施する。

【令和2年度実績】 コロナ禍の影響のため実施せず

エ 授業づくりの支援のため、教員に素材となる資料・情報を提供する。

(2) 幅広い利用者への支援

1) 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施(37)

ア 夏季に博物館実習などを通じ、学芸員資格の取得を目指す実習生を受け入れる。

【令和2年度実績】 11 大学 46 名

イ 要請にもとづき、大阪公立大学、大阪大学、同志社大学等への出講を行う。

【令和2年度実績】 大阪大学、同志社大学、大阪芸術大学、関西大学、神戸大学、大阪
市立大学

ウ 館蔵資料の閲覧対応などを通じて研究者の活動を支援する。

【令和2年度実績】 11 件

エ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。

【令和2年度】 来館者 498 名

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(38)

ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果をつたえる「なにわ歴博講座」を継続的に実施する(再掲)。

【令和2年度実績】 3 回

イ 学芸員の専門に即した連続講座を実施する(再掲)。

【令和2年度実績】 考古学入門講座、漢文講座はコロナ禍の影響のため中止

ウ 展覧会などの関連事業としてのシンポジウムなどを開催する(再掲)。

エ 時宜に叶ったテーマで館長講演会を開催する。(再掲)

3) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(39)

ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、ホームページ上で公開する(再掲)。

【令和2年度実績】 「大阪歴史博物館研究紀要」第19号

イ 共同研究報告書、館蔵資料集などを継続的に発行する(再掲)。

【令和2年度実績】 「共同研究報告書」第15号、「大阪歴史博物館館蔵資料集」第17号

ウ 年報の作成およびホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する(再掲)。

エ 特別展の図録を作成する(再掲)。

【令和2年度実績】 企画から中心的に関わった2本の巡回特別展において作成。ただし1本は開催中止のため非公開。

オ 特集展示リーフレットを継続的に作成する(再掲)。

【令和2年度実績】 5本の特集展示において作成。ただし1本は臨時休館により非公開。

4) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(40)

ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進め、展示更新計画と合わせて新たなあり方を検討する(再掲)。

イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る（再掲）。

(3) 参画機会の提供

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進(41)

ア コロナ禍・コロナ後を見据えてボランティア活動を再検討するとともに、特別展等の見学、館内の講座への参加などの研修を行い、ボランティアスタッフの資質を高める。

【令和2年度実績】 活動（バックヤード作業） 延べ人数 132人

イ 近隣地域に活動拠点を置く NPO 法人などと、わくわく子ども教室「凧づくりと凧揚げ」などの協働事業を実施する。

【令和2年度実績】 「凧づくりと凧揚げ」を協議の上中止

2) 各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定(42)

ア ボランティアとの意見交換の場として、ボランティア懇談会を開催する。

【令和2年度実績】 ボランティア懇談会の代替アンケートを1回実施

イ 友の会の総会および幹事会を通じ、意見を聴取する。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励(43)

ア 館の活動に関係する学術団体等と連携し、市民が最新の研究成果を享受できる報告の場を設ける。

【令和2年度実績】 第36回歴史学入門講座（同講座実行委員会）開催中止

<CRS 関係> コロナ対策

(1) 既存サービスのデジタル化

ア グッズ・図録の EC を活用した販売を促進し、グッズ開発を進める。

イ 電子チケット販売、電子マネー・クレジットカード利用を更に推進し、インターネットプロモーションとの連動により利用者の利便性向上を図る。

ウ ユーザーへの適切な情報発信を実現するための顧客管理システムの導入とコンテンツマーケティング実行を検討、企画する。

(2) デジタル化による新規事業の展開

ア SNSでの展示解説等の動画配信を推進するとともに、オンラインでの講座開催をめざす。

(3) 新規利用者層の開拓

ア 令和3年度より開始したリアル謎解きゲームの企画、運営を継続する。

イ フォトコンテスト、写真教室など館の収蔵品と施設を活用した個人参加型イベントを企画、運営する。

ウ 講堂・貸室を活用した音楽発表会・フィルム上映会イベントを実施する。

(4) 法人利用者の開拓発掘

ア 民間企業と共同でイベント等企画開発を行うべく営業活動を実行する。

イ 令和3年度より開始したクラブツーリズム株式会社と共同でマイクロツーリズム企画の開発・販売を更に推進する。

ウ 通常の博物館運営ならびに展示改修の支援を得るべく法人賛助会員の獲得活動を実行する。

(5) 常設展示等の大規模改修

ア 大阪・関西万博に向けて、2025（令和7）年公開を目標に、常設展示等の大規模改修の計画を推進する。令和4年度は、基本計画に基づき、計画を推進する。
（2万博）

イ 更なるCS向上のためレストラン委託事業者の見直しを検討する。

(6) 省エネルギー運営へシフト

ア 令和3年に計画、実行してきた省エネルギー投資と効果検証を継続し、CO₂、光熱水費の削減を実現する。

大阪中之島美術館

(前 文)

令和4年2月2日の開館後も引き続き大阪中之島美術館の使命「①大阪と世界の近現代美術の魅力を伝えます。」「②大阪人の目で美術の新たな価値を創造します。」「③ヒト・コト・モノが行き交うプラットホームとなります。」「④大阪発の情報を世界に広めます。」を果たすべく、大阪が誇る第一級の近・現代美術とデザインのコレクションを有する美術館として、展示や公開、普及活動を積極的に展開し、あわせて作品資料収集や調査研究や保存、修復等の事業を計画的かつ継続的に実施する。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備

1) 博物館等資料の新たな収集(1)

ア 美術及びデザインに関する作品資料及び情報の収集を行う。

- ・作品資料収集活動に必要なかつ適切な情報を入手するため、国内外の美術動向に関する資料を継続的に収集する。
- ・所蔵作品作家の著作権状況について継続的に調査を進める。

2) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承(2)

ア 大阪中之島美術館の開館前の燻蒸及び IPM を実施する。

- ・収蔵作品資料及び図書の燻蒸を実施する。
- ・策定した作品資料収蔵エリア等の IPM クリーニングの計画に基づき実施する。

イ 収蔵庫及び展示室での温湿度及び酸・アルカリ濃度の管理を継続的に行う。

ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。

エ 新規受入作品資料の登録を継続的に行う。

3) 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供(3)

ア アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を継続して行う。

イ アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開する。

ウ 大型や立体を中心に、未撮影作品や再撮影が必要な作品の撮影を実施する。

- ・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図る。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(4)

安定した運営とブランディングに資する協賛金・協力制度を構築し、人材を配置する。

5) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究(5)

ア 収蔵作品資料に関する調査研究を、継続的に進める。

イ 作品資料保存や展示方法について、最新の情報の収集に努める。

6) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復(7)

ア 収蔵作品資料について、作品保護と開館後の展示の必要性を考慮して、修復と額装を行う。

7) 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得(9)

公的補助金や民間助成金の申請を視野に入れ、情報の収集に努める。

(2) 幅広い活動や連携を通じた博物館等魅力の効果的発信

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 常設展における展示替え(11)

令和4年度は開催なし。

2) 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化(12)

ア 大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する展覧会を開催する。

・みんなのまち 大阪の肖像

絵画、写真、ポスターをはじめ、大阪中之島美術館の多岐にわたるコレクションを中心に、大阪府市内外の博物館・美術館や企業などからの出品に加え、大阪の魅力を広く掘り起こします。

[第1期] 4月9日～7月3日

[第2期] 8月6日～10月2日

・ロートレックとミュシャ パリ時代の10年

今日ますます評価が高まるロートレックとミュシャ2人の作品を合わせて紹介すると共に、わずか10年の内に作成されたロートレックの全ポスター作品31点を一堂に展示します。

10月15日～2023年1月9日

・大阪の日本画(仮称)

幕末から昭和に至る近代大阪の日本画に注目し、その魅力と活動実態を明らかにしようとするものです。上方の文学や芸能と同様、大阪ならではの特徴や視点、作品の奥に広がるさまざまな背景を浮き彫りにすることで、個々の作品の魅力、画壇の在り方を再認識する機会となることをめざします。

2023年1月21日～4月2日

・サラ・モリス展(仮称)

2023年1月28日～4月2日

3) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(13)

ア 大阪市内を中心に学校と連携して学校向けのプログラムを企画・提供するための準備を行う。

4) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(14)

ア 大阪中之島美術館公式ウェブサイト等を通じて公開する。

イ 特別展の図録を作成・販売する。

5) 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用(15)

企画展のために外部から作品資料を借用する準備を行う。

6) 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携(16)

ア 他館の学芸員と協力して調査・研究を進め、展覧会でその成果を広く公開する。

7) ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進(17)

ア アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を行う。

イ アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開する。

ウ 作品資料の撮影を行う。

- ・美術館建物引渡しの後、大型や立体を中心に、未撮影作品や再撮影が必要な作品の撮影を実施する。(再掲)

- ・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図る。(再掲)

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

8)他の博物館等関係機関との相互支援及び協働を通じた作品(資料)の保全及び効果的な活用(18)

9)各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施(19)

ア PFI 事業者と協働し、トークイベント、シンポジウム等、開館プレイベントを実施する。(再掲)

(3) 戦略的広報の展開

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信(20)

ア 大阪中之島美術館公式ウェブサイトや SNS 等を継続的かつ効果的に更新する。(再掲)

イ 国内外のメディア、ネットワークに発信する枠組み・体制構築に向けた検討を行う。

2) マスメディア等への積極的な情報発信(21)

ア 新聞、雑誌、テレビ等マスメディアに加え、各種オンラインメディアに対し、定期的にプレスリリース等による情報発信を行う。

イ 外部専門家の協力のもと、情報の配信・送付先やリリースの形態、文言、タイミング等を常に精査し、プレスリリース効果の最適化を図る。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開(23)

ア 来館者や地域コミュニティに向けたプログラム等の企画を進める。

2 幅広い利用者の獲得と連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実と体制整備

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致(25)

ア テレビ局と協働して、大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する特別展を開催する。

- ・モディリアーニ ―愛と創作に奉げた 35 年―

国内外の美術館やコレクターが愛蔵するモディリアーニ作品とともに、盟友たちがパリで繰り広げた多彩な芸術の動向を紹介し、1910 年代のパリを舞台に開花したモディリアーニの世界を堪能していただきます。

4 月 9 日～7 月 18 日

- ・岡本太郎(仮称)

1970年日本万国博覧会のテーマ館《太陽の塔》で知られ、今日でも幅広い世代の人々を魅了する芸術家・岡本太郎（1911 - 1996）。この度、作家の芸術人生を振り返る、大回顧展を開催します。

7月23日～10月2日

・すべて未知の世界へ—GUTAI 分化と統合

1954年に結成された具体美術協会（具体）の活動拠点「グタイピナコテカ」が建設された地、大阪・中之島で開催される初の大規模な具体展です。2022年2月に開館する大阪中之島美術館と、道路一本を隔てて隣り合う国立国際美術館。開館して50年の節目となる2022年、2館同時開催という類い稀な形式で開催される本展覧会は、「分化と統合」というテーマを掲げ、新しい具体像の構築をめざします。

10月22日～2023年1月9日

2) さまざまな利用者の受入れ体制の充実(26)

ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等（非常時の案内を含む）の見直しを進める。

3) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(27)

ア 施設案内や券売等の他言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努める。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得(29)

ア 大阪観光局等と協力し、観光広報媒体に情報を提供する。

(2) 周辺事業者との連携

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客(30)

ア クリエイティブアイランド中之島実行委員会や中之島ウエスト・エリアプロモーション等と連携し、事業や広報の展開を図る。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発(33)

ア 開館及び特別展開催に伴い、グッズ等の商品開発を行う。

3 人々の多様なニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こどもや教員の支援

1) こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施(35)

ア 外部専門家と連携して、こどもを対象としたワークショップ等を実施する。

(2) 幅広い利用者への支援

1) 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施(37)

ア これまでの外部研修生（インターン）制度を見直し、開館後の研修プログラムの検討を進める。

イ 博物館実習生の受け入れ計画を作成する。

ウ 大阪公立大学での博物館学に係る講義を分担する。

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(38)

ア トークイベント、シンポジウム等、開館プレイベントを実施する。（開館前より継続実施）（再掲）

イ アーカイブズの方針、収集や整理、システム開発や運用方法等にかかる研修、普及事業を実施する。

3)多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(39)

ア アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開する。

(再掲)

イ 撮影済みの画像データの公開

撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図る。(再掲)

ウ 特別展の図録を作成・販売する。(再掲)

4)多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(40)

ア 施設案内や券売等の他言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努める。(再掲)

(3) 参画機会の提供

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

1)さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励(43)

ア 多様な層を対象としたプログラムを企画、実施する。

機構事務局

(前 文)

大阪市博物館機構に所属する各館が持つ力を最大限に発揮できるよう、博物館運営に関する調査研究、マーケティング、共同広報、連携事業などを実施して事業効果の増大をめざし、また事業の計画及び評価を行い、安定的な経営に資するために財務内容の改善を図るとともに、内部統制の確立に努める。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

1) 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(4)

ア 採用されて、数年の学芸員に対して、機構、各館の運営、活動等について研修を行い、今後の現場での活動に役立つよう育成を行う。

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究(5)

ア 博物館の利用者等に関する調査・分析等を継続的に実施する。

3) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等(6)

ア 博物館の評価についての情報収集に努めるとともに、6月末までに令和3年度の自己評価を大阪市長に提出し、また上半期終了後に令和4年度の間接評価（仮評価）を実施する。

4) 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得(9)

ア 科学研究費補助金に応募を行い研究資金の獲得に努める。

イ 文化庁補助金を活用した「博物館機能強化推進事業(仮)」を予定し、また次年度の応募を行って補助金獲得に努める。

【令和2年度実績】 ミュージアムと地域を活性化させる魅力発信事業 採択

(2) 幅広い活動や連携を通じた博物館等魅力の効果的発信

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(13)

ア 各館の学芸員等が連携して行う連続講座を16講演程度開催する。

【令和2年度実績】 学芸員連続講座 Talk & Think15回実施

イ 大阪公立大学等と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ（6講演）、歴史に関する連続講座を1回、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回程度、それぞれ開催する。状況に応じてオンライン配信の取り組みを行う。

【令和2年度実績】 大阪市立大学との連携で6講演実施 徳川大坂城400年シンポジウム実施

ウ 博物館に興味を持つ市民団体等のために「出前講座」を実施する。

2) 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携(16)

ア 展示・収蔵環境、オンライン発信の整備等の各館に共通する課題について、情報意見交換の場、研修を主催し、課題の改善に取り組む。

・展示・収蔵環境部会等の開催

- ・情報化ネットワークに関する検討会 等
- イ 収蔵資料貸借による展示の充実、共同研究、地域イベントへの参画など連携・協業を通じて、事業内容の向上に取り組む。
 - ・自然史博物館と大阪歴史博物館学芸員などによる「教員のための博物館の日」の実施。
 - ・自然史博物館「自然史フェスティバル」において、科学館と連携し「ジオカーニバル」の実施。
 - ・東洋陶磁美術館、科学館、大阪中之島美術館の「クリエイティブアイランド中之島」への参画による、クリエイティブコンテンツの開発・創出。
- ウ 共同広報、連続講座、講演会の開催を主催し、各館、機構のPRに取り組む。
 - ・インターネットのポータルサイト「Osaka Museums」を多言語で開設・運営し、展覧会情報等を掲載する。
 - ・Twitter や Facebook といった SNS による展覧会情報等の広報を日常的に行う。
 - ・各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「Osaka Museums」を4回発行する。

【令和2年度実績】Osaka Museums 4 回発行

- ・各館の概要を案内する「総合案内パンフレット」（多言語）の内容変更等を検討する。
- ・各館の学芸員等が連携して行う連続講座を16講演程度開催する（再掲）。
- ・大阪公立大学等と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ（6講演）、歴史に関する連続講座を1回、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回、それぞれ開催する。状況に応じて、オンライン配信の取り組みを行う。（再掲）

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) 他の博物館等関係機関との支援及び協働を通じた資源の保全及び効果的な活用 (18)

ア 大阪公立大学と包括連携協定を結び、共同の調査・研究、キャンパスメンバーズ制度や博物館学・実習の援助等の学生支援、講座開催等の社会貢献を行う。

【令和2年度実績】大阪市立大学博物館学講座において「保存論」「展示論」「経営論」の3講座をオンライン形式で実施

イ 大阪市文化財協会との包括連携協定に基づき、共同の調査・研究、展示、普及事業等を実施する。

(3) 戦略的広報の展開

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

ア インターネットのポータルサイト「Osaka Museums」を多言語で運営し、展覧会情報等を掲載する。（再掲）

イ Twitter や Facebook といった SNS による展覧会情報等の広報を日常的に行う。（再掲）

ウ 各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「Osaka Museums」を4回発行する。（再掲）

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

1) 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定 (22)

- ア カスタマーリレーションシップマネジメント（顧客DBを構築して分析を行い、関心層を育成する）を行う。
- イ 各館の持つ市場規模や入館料における価格受容度を調査し、その結果を全館に共有した上で広報やプロモーション施策に反映させる。

2) 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開(23)

- ア 生涯学習情報誌月刊「いちょう並木」に展覧会等情報を提供する。

2 幅広い利用者の獲得と連携強化を通じて「大阪を元気に」

(2) 周辺事業者との連携

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客(30)

- ア Osaka Metro、阪神高速等の交通機関、銀行等の商業施設に広報誌「Osaka Museums」を設置し、広報を行う。
- イ Osaka Metroの「キッズ・サマーパス」等に協力し、観覧者の誘致を図る。

3 人々の多様なニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こどもや教員の支援

1) 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施(36)

- ア 「教員のための博物館の日」を自然史博物館、歴史博物館で各1回開催予定。

(2) 幅広い利用者への支援

1) 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施(37)

- ア キャンパスメンバーズを実施し、大学生等が各博物館を気軽に訪れられるようにし、常設展示・特別展等で行う文化・知識に触れやすくする環境を整え、専門的な知識内容の理解を深められるようにする。

【令和2年度実績】 提携校 大学4校 高校3校

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(38)

- ア 各館の学芸員等が連携して行う連続講座を16講演程度開催する。(再掲)

【令和2年度実績】 学芸員連続講座15回実施

- イ 大阪公立大学等と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ(6講演)、歴史に関する連続講座を1回、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回、それぞれ開催する。状況に応じてオンライン配信の取り組みを行う。(再掲)

【令和2年度実績】 大阪市立大学との連携で6講演実施 歴史連続講座1シリーズ6講演実施 「徳川大坂城400年」シンポジウム実施

- ウ 博物館に興味を持つ市民団体等のために「出前講座」を実施する。(再掲)

【令和2年度実績】 2件実施

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 人材の活用と育成

職員の意欲及び能力を活かすため、次の通り、職員の育成に取り組む。

【法人として充実を目指す事項】

1) 職員の能力が発揮できる組織体制の構築及び適切かつ柔軟な人員配置(49)

職員の意欲及び能力向上に資するため、職員の能力が発揮できる組織体制の構築や職員の適切かつ柔軟な配置を進める。

2) 職員のスキルアップを図るための学習機会の確保(50)

職種や職階を超えた職員に共通する研修を実施する。

係長級職員向けの研修を実施する。

新採・新任研修を実施する。

学芸員の資質向上を目的に、専門的研修を実施する。

法人の内部統制の推進のための研修を実施する。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) 包摂的な社会にふさわしい人材の獲得(51)

年齢・性別等にとらわれず、能力、適性に応じた人材を、すべての職種において採用する。

4) 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(52) (再掲)

教育普及の人材のあり方について検討を行う。

2 評価制度の活用

評価制度に基づく業務改善及び職員のモチベーションが向上するよう、次の通り、適正な制度の運用を目指す。

【法人として充実を目指す事項】

1) 法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価(53)

年度計画については、令和5年度分の策定に向けて、評価委員会の意見に沿いながら、適正な目標設定を行ったうえで年度計画を作成する。自己評価については、6月末までに令和3年度の自己評価を大阪市長に提出し、また上半期終了後に中期計画期間終了前年度の評価(仮評価)及び令和4年度の間接評価(仮評価)を実施し、業務改善につなげる。

2) 能力に応じた人事評価の実施(54)

職種に応じた能力が的確に把握できる人事評価制度の深化を図る。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) 法人の適正な目標設定及び評価の基礎となる運営に関する調査研究の実施(55)

展覧会事業における観覧者数や事業費を始め、適正な目標設定や評価の基礎となる運営に関する他館情報も含めた調査研究を実施する。

4) インセンティブが適正に働く人事制度の導入(56)

事業評価や人事評価に基づき、インセンティブが適正に働く制度の構築を検討し、その運用を実現する。

3 ICTの導入・活用、民間活力の導入

業務の標準化及び迅速な処理のため、次の通り、ICTの導入及びその活用を図る。

【法人として充実を目指す事項】

1) 財務、会計、勤怠、人事及び給与業務等におけるシステムの導入及び活用(57)

各館と事務局を結ぶネットワークを通じて、法人情報の迅速な共有を図る。人事・給与や財務会計システムを利活用し、業務の円滑化・省力化を図る。

利用者へのサービスの向上及び業務の効率化を図るため、民間活力を効果的に導入する。

【法人として充実を目指す事項】

2) 事業効果を見極めた外部委託の推進(58)

事務局や各館の進める事業に対する顧客の評価を把握するため、その調査における外部委託を進める。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) 専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用(59)

民間から登用した専門知識を有する職員らが中心となり、機構の広報等について検討を行う。

4) 民間事業者等の外部からの意見を聴取する仕組みの導入(60)

委託事業者等から意見を聴取し、必要に応じて、業務改善への反映を図る。

5) リモート・ワーク（在宅勤務）の推進

第3 財務内容の改善に関する事項

1 収入の確保

資金を安定的に確保するため、次の通り、各館の収入の増加に努めるとともに、外部からの資金獲得にも努める。

1) 幅広い利用者の獲得及び法人資産の有効活用による収入の増加(61)

令和3年度より実施している機構中期戦略（CRS）によって、収入確保を推進する。

【法人として充実を目指す事項】

次の中期目標期間中の増収目標の他一斉に必要な単年度分の増収をめざす。

・中期計画期間中の増収目標（2019年4月1日版 中期計画より抜粋）

（大阪市立美術館）常設展：5年で3%特別展：5年で5%

（大阪市立科学館）常設展：5年で5%

（大阪歴史博物館）常設展：5年で3%特別展：5年で3%

（大阪市立東洋陶磁美術館）特別展：5年で3%

（大阪市立自然史博物館）特別展：5年で5%

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 各館の活動への理解と支援に基づく寄附金等の積極的な獲得(62)

社会教育施設としての役割と、安定的事業実施を念頭においた、特別展等における適正な料金のあり方を検討する。

法人寄附、協賛獲得に向けて制度設計を行い、実施準備に取り組む。

3) オンラインサービスの充実による収入増

オンラインショップを運営し、SNSによる発信や積極的な商品開発により、新たな収益の獲得を実現する。

2 経費の節減

安定的な経営を実現するため、次の通り、経費の縮減に努める。

1) 契約の方法、期間及び単価の見直しによる経費の縮減(63)

業務委託や高額物品の調達等において、規程に従い、競争入札を積極的に実施する。

一層の競争性の確保に努め、一括調達や長期契約に向けた規程等を整備し経費の縮減を図る。

2) 共同調達による経費の縮減(64)

各施設の業務内容などを考慮し、消耗品や役務について具体的な品目を定め、各館等との共同調達を進める。

第4 その他業務運営に関する重要事項

1 内部統制移管する事項

(1) 環境整備

内部統制の確立のため、次の通り、必要な規程の策定等を行うとともに、その理解を深めるための環境を整備する。

【法人として充実を目指す事項】

1) 法人として定めた規程及び体制による内部統制の推進(65)

法令や業務方法書等に基いた内部統制の推進に関する規程に沿った運用を行う。役員及び職員としての倫理指針及び行動指針を遵守する。

2) 研究者及び学芸員として必要な規程及び体制の整備並びに法人内での職員の意識向上(66)

研究者及び学芸員としての倫理観の確保、理解増進に向けた研修を実施する。

3) 各職階及び各職域に応じた必要な権限と責任感の一層の醸成(67)

組織や役員の分掌に関する規程に沿って、法人業務を監理・監督する。

4) 適切な意思形成のための法人内の会議体の在り方の検証(68)

理事会や業務執行のための会議を定期的で開催し、迅速な意思決定や情報共有を図る。

5) 情報共有に必要なイントラネットをはじめとするICTの活用の促進(69)

意思疎通や情報共有のため、導入したグループワークやウェブ会議のシステムなどのICT技術を積極的に活用する。

6) 内部監査等による定期的な内部点検及び監事による監査の確実な実施(70)

監事監査及び内部監査により、内部統制環境を点検し、有効性をモニタリングするとともに、内部統制に関する必要な見直しを行う。

(2) 重要なリスク回避のための体制の構築

重要なリスクを回避するため、次の通り、早期の発見及び対処が可能な体制を構築する。

【法人として充実を目指す事項】

1) リスク管理体制の整備及び組織全体で取り組むべき重要なリスクの評価(71)

業務実施の障害となるリスクを調査し、当該リスクへの適切な対応を可能とする規程に沿った運用を行う。

入館者の安全、資産管理等多角的な視点からリスクを調査し、問題の早期発見とリスク回避を図る。

建築物(付帯設備も含む)管理・点検を行い施設障害発生リスクの回避に努める。

2) ネットワークセキュリティの強化(72)

個人情報などの機密情報の漏えいを未然に防ぎ、情報セキュリティ対策の一元化を図るため、情報システムに関する作業部会を立ち上げ、報告をまとめる。

訓練や研修を通じて、情報セキュリティ対策の実施状況を把握し、その結果に基づいて改善に努める。

2 その他の事項

(1) 利用者等の安全確保

さまざまな人々が快適に利用できるようにするため、次の通り、各館の施設における安全を確保する。

【法人として充実を目指す事項】

1)利用者及び職員等の安全確保に必要な体制の整備及び各館で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底(73)

利用者及び職員の安全を確保するため、定期的な安全訓練を行う。研修等を通じて、職員の安全に対する意識向上を図る。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2)博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修(74)

快適な利用環境の確保に向けた計画的な整備を行う。

高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を念頭に施設の点検を実施する。

3)バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修(75)

建築物の大規模改修時において、博物館の設置及び運営上の望ましい基準に基づきバリアフリー及びユニバーサルデザインを推進する。

(2) 環境保全の取組み

環境への負荷を低減するとともに、社会の要請に応えるため、次の通り、環境に配慮した取組みを進める。

【法人として充実を目指す事項】

1)省エネ機器の使用の推奨及び適正な空調温度の設定(76)

環境に配慮した業務運営を行うため、省エネ機器・器具の使用や適正な空調温度の設定・維持に努める。

2)再生紙その他の資源の有効利用の促進(77)

再生紙利用の促進や両面コピーの徹底を図る。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3)環境に配慮した取組みの指標化及びその公開(78)

建物の大規模改修時にトップランナー機器等の先端省エネルギー機器の導入を図る。

制定した「リデュース・リユース・リサイクルのための法人としての取組計画」に沿って、引き続き省エネルギーに努める。

4)新たな省エネルギーの実現に向けた取組みの推進(79)

環境への取組状況をエネルギーの使用の合理化等に関する法律に基づき管理する。

(3) 情報公開の促進

運営状況の透明性を確保し、広く法人の活動への理解及び信頼を得るため、次の通り、情報公開を推進する。

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1)ホームページ等を通じた情報の積極的な公開 (80)

法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報を、ホームページ等で積極的に公表する。

2)情報公開請求に対する迅速な対応 (81)

業務内容に理解に資する情報をホームページ等で積極的に公開する。

<万博関係事業>

大阪・関西万博の開催に向けた準備

2025年度の関西万博に向けて、プロジェクト会議を開催し、9月末をめどに次年度以降の機構としての取り組みを検討する。

第 5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 予算（人件費の見積りを含む。）

2022 年度予算

（単位：百万円）

区分	金額
収入	
運営費交付金収入	2,642
施設整備費補助金収入	1,692
自己収入	393
事業収入	370
その他収入	23
寄付金収入	2
前期繰越金	722
計	5,451
支出	
業務費	2,148
展覧会経費	321
その他業務経費	610
人件費	1,217
施設整備費	1,747
修繕費	55
施設整備費補助金支出	1,692
一般管理費	865
機構戦略費	691
計	5,451

2 収支計画

2022 年度収支計画

(単位：百万円)

区分	金額
費用の部	3,280
経常費用	3,280
業務費	2,148
展覧会経費	321
その他業務経費	610
人件費	1,217
施設整備費	77
一般管理費	863
機構戦略費	45
減価償却費	147
収入の部	3,225
経常収益	3,225
運営費交付金収益	2,642
施設整備費補助金収益	22
事業収益	370
その他収益	3
寄付金収益	46
資産見返負債戻入	142
純損失	▲ 55
前期繰越金	55
総利益	0

3 資金計画

2022 年度収支計画

(単位：百万円)

区分	金額
資金支出	6,179
業務活動による支出	3,135
投資活動による支出	2,316
翌年度への繰越金	728
資金収入	6,179
業務活動による収入	4,729
運営費交付金による収入	2,642
施設整備費補助金収入	1,692
事業収入	370
その他収入	23
寄付金収入	2
投資活動による収入	0
前年度からの繰越金	1,450

第6 短期借入金の限度額

1 限度額

5億円

2 想定される短期借入金の発生事由

運営にかかる一時的な資金不足への対応、運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること等が想定される。

第7 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画

なし

第8 前記の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

第9 剰余金の使途

決算において、剰余金が発生した場合、館蔵品の購入等、展覧事業・調査研究等の充実、施設・設備機器の整備及び組織運営の改善等、法人の円滑な業務運営に充てる。

第10 その他設立団体の規則で定める業務運営並びに財務及び会計に関する事項

1 積立金の使途

積立金は、中期目標期間中の損益計算における利益の残余を整理するものであり、第1期中期目標期間において前期の積立金は存在しないため、その処分に関する計画は作成しない。

2 その他法人の業務運営に関し必要な事項

(1) 人事に関する計画

第2 (1) 人材の活用と育成、(2) 評価制度の活用に記載のとおり。

(2) 施設及び設備に関する計画

長期的な展望に立った計画的な施設設備の整備を行うとともに、施設の老朽化の程度を勘案しつつ、下記のとおり計画に従った整備を推進する。

施設・設備の内容	予定額 (百万円)	財源
・建物改修工事 ・空気調和機整備工事 ・自動火災報知機設備更新 ・エレベータ設備更新 ・各所施設整備	1,692	施設整備費補助金